

## 第3節 教育活動

### 1. カリキュラムの大綱化

大学教育の根幹をなすカリキュラム体系は、大学の建学の理念に照らし、いかなる知識を教授し、どのような学生を育てようとするのかの表現であるとも言えよう。大谷大学にあっても折りにふれ検討を重ね、従来はくさび型カリキュラムと名付ける一般教育科目を卒業学年までに取得することを求め、専門教育科目を2回生から4回生にかけて順次取得させる、専門教育科目と一般教育科目との調和型のカリキュラム体系をその特色としていた。

一方社会的には、大学教育の硬直化を指摘する声は多く、より柔軟に個々の大学が独自性を発揮することを求めて、1991（平成3）年7月、一般に設置基準の大綱化と呼ばれる、大学設置基準の一部が改正されたのである。

大谷大学はいち早くこの設置基準大綱化の趣旨を理解し、大学に対する社会的な要請をも汲んでカリキュラム改革に着手した。即ち1992（平成4）年4月よりは大谷大学において、翌年には短期大学部においてカリキュラムの改革を実施し、更に翌年には科目等履修生や単位互換に関する規程を整備したのである。カリキュラムの改革は、従来的一般教養科目・専門教育科目の区分を廃し、共通科目・学科指定科目・自由科目の3区分とするもので、科目選択の幅を拡大し、学生個々の内発的関心に応じた履修ができるよう配慮した本学独自のものであった。これらの改革の中には、従来必修とされていた体育を大綱化により選択科目とするなど、他大学に先駆けて実施したものもあり、本学のカリキュラム改革は他大学からも注目されるものであった。

また、これらカリキュラム改革には、従来一般教育科目として位置づけ全学に必修としていた「総合」科目を、内容に検討を加え改めて全学必修の共通科目として位置づけた「人間学」に関する改革も含まれている。この「人間学」に関しては、1回生には「人間学Ⅰ」を必修とし、真宗学・仏教学の教員が担当する。新たに2回生以上に課した「人間学Ⅱ」に関しては、真宗学・仏教学以外の科目を担当する教員が個々の専門科目を通して広く人間に関わる諸事象について論究することとした点に新たな改革があったのである。短期大学部においても同様の改革が行われた。

以下にそれぞれの改革について述べた文章を採録する。

#### 〈大谷大学の目指すもの—設置基準の大綱化に際して—〉

今日、世界はさまざまな分野で大きくしかも急速に変化しているが、学問研究の分野においても、その研究対象の領域の拡大や学際研究の推進が迫られるなど急速な変化が起こっている。

日本の大学も、世界を視野に置いて学術研究に貢献していくことが重要な課題となり、これまでの受信型の教育研究から発信型の教育研究への転換が迫られているのである。つまり、本学にとっても、伝統の質を保ちつつ、その独自性を発揮し、個性化を推進する改革が迫られているということにほかならない。

#### 設置基準の大綱化

1991年7月、大学設置基準の大幅な改定が実施された。それは、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門教育科目に細分されていた従来の授業科目の区分を廃止し、その理念と目

標の実質的な達成を各大学の主体的な教育課程編成への取り組みの中で実現することとした内容である。これは、戦後の高等教育においてなされた最も大きな教育課程の改定である。

大谷大学はこの設置基準の大綱化の主旨に沿って、「仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教ならびに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的」とする理念を確認し、次の原則を踏まえつつ教育課程の移行を検討した。

- (1) 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の実現を基本とする。
- (2) 学生の内発的な関心を伸ばしていくことを目的とし、学生の関心、到達度に応じた教育課程の提供に留意し、学生の意欲に応じていくことのできる教育課程を実現する。
- (3) 卒業必要単位の改定を含め、学位授与機構の創設など大学を取り巻く関係諸機関との接続を考慮しながら、教育課程を工夫する。

これらの内容を踏まえながら、本年4月より、次のカリキュラムを導入した。

### 内発的関心を大切にす新教育課程

#### ①授業科目の区分の廃止

設置基準によって一般教育と専門教育に二分することが義務づけられていた教育課程をあらため、大谷大学文学部の教育課程を独自の体系として構築するため、一般教育と専門教育の区分を廃止するとともに、従来的一般教育及び専門教育における共通関連科目を自由科目とした。

#### ②必修科目数の抑制

この新しい教育課程では、学生の内発的な関心を高め、これを積極的に教育課程に活かしていくために、必修科目数を抑制した。新しい課程の必修科目は共通科目と学科指定科目（必修・選択必修科目）の二種である。大谷大学の研究教育がめざすものを学ぶ独自の総合科目としての「人間学」（8単位）と文学部の学生として広く外国文化に接することを旨とする外国語科目（第一外国語6単位、第二外国語6単位）が全学生に共通科目として課せられる。専門教育の根幹である演習、講読などは学科指定科目（58単位）と呼ばれる。この改定により、卒業必要単位数124単位の内、46単位を自由科目として学生は各自の自発的関心にもとづいて選択し、学ぶことができるようになった。

#### ③学科指定科目の学年指定の緩和

学年を追って、基礎科目、基礎講読、演習、卒業論文と専門的な階梯を進む段階的カリキュラムを従来どおり実施するが、他方、専門分野の講義及び選択必修科目の履修年次の指定を緩和、学生の主体的な取り組みに期待することとした。また、これに伴い、進級制度も改定した。

この教育課程の改定の結果、学生諸君は自分の関心に応じてより自由な時間割を組み立てることができるようになった。個々の関心に基づいてより高度で専門的なテーマに重点を置いた履修をしたり、より広くバランスのとれた教養をめざして履修をする者や外国語学習のため集中度の高い履修をする者など、それぞれのニーズに合った履修をすることができるよう改定されたので、その成果に期待している。

### 21世紀をめざして

本年4月より、本学は文学部の教育課程の改定をはじめ、広報4-1号で報告されている短期大学部の学科改編、大学院での客員教授による特別セミナーの実施などさまざまな取り組み

を重ねてきた。

大学を取り巻く環境は冒頭に述べたように激しく変化している。教育研究の国際化、情報化、高度化を始めとする社会の要請に対して大谷大学らしい独自の応答を積み重ねつつ、新しい世紀を迎える大谷大学でありたいと願うものである。

文学部長 古田和弘（『大谷大学広報』4-2号、1992年）

### 〈個人の個性・大学の個性—短期大学部のカリキュラムの大綱化—〉

#### 大学設置基準の改正

日本の大学は今大きく変わりつつある。入学試験の方法や制度の多様化、学部あるいは学科の新設ないし改編、名称の変更、そうした人の目につく変化だけではない。それよりも一層本質的で、人の目につきにくい大きな変化がある。すなわちカリキュラムの改正（大綱化）である。

カリキュラム・教育（科）課程というのは、どの教育研究機関にとっても、心を表現する顔であり、精神を体現している身体である。何を目指して如何に教育し研究しているか、つまりは、その学校ないし大学の設立理念や活動目的、そしてまたその存在意義を、具体的に且つ体系的に明示しているのがカリキュラムでありその表である。従って国も、日本の教育研究の水準を維持し質を整えるために基準を設けている。1991年にそれが変わった。いわゆる「大学設置基準の改正」である。カリキュラム上に設けられていた枠が大幅に解除された。いわゆる「大綱化」である。各大学はより自由にカリキュラムを編成して各自の設立理念をより具体化し、その活動目的をより積極的に追究して存在意義をより鮮明に打ち出すことが出来るようになった。しかしこの事は、逆から言えば、各大学が設立の初心に立ち帰って教育研究の現状を見直し、各自の存在意義を各自で検討し確認するよう求められたということでもある。

いま各大学には真の主体性が求められ、意義ある個性化が求められている。

#### 大谷大学における大綱化

大谷大学は、時には<sup>かた</sup>頑なと見えるほどに、その設立理念（「大谷大学樹立の精神」）を維持し、それを教育研究の上に活かし具現しようと努めてきた大学である。では、大谷大学には大綱化はないのか。そうではない。文学部では昨年度からの、短期大学部では今年度からの入学生に、大綱化されたカリキュラムが適用されている。その具体例を短期大学部に見れば、これまでは一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門科目というように分類され枠組みされていた枠が取り払われて、必修科目を最少限に抑えた基礎的「共通科目」（「仏教と人間」「英語」）と専門の「学科指定科目」、そして、学年や学科の枠を越えて自由に履修できる「自由科目」の三つに大別されている。特に「自由科目」は五群に整備されて、各自が自分の関心と意欲に基づいて、幅広い或いは高度な知識を修得し、語学力を育て、情報処理能力を養い、体育を充実させることが出来るようになっており、あらゆる面で教養を高めることが出来るように安配されている。

このように「自由科目」というものが設置整備されたということは、学生の一人ひとりが、専門の学習研究を中軸に据えながら、各自のニーズによって時代に適した広く高い教養を身につけ、そのことによってまた専門的知見を一層濃密にして、どこまでも自己の人格の全面的な陶冶を図ることがしやすくなったということである。しかしこの事は、逆から言えば、各自が自己のニーズに、つまり、何かを求め達成しようとしている自己自身に立ち帰らされることを

意味しており、何を如何に達成し、どういう者で在ろうとするかの自己決定をより強く求められていることでもある。学生各自には真の主体性と意義ある個性化が求められている。

### 学生の個性・大谷大学の個性

明治、戦後につぐ「第三の教育改革」とも言われる今回の改革は、個性重視を原則とする改革だと言われている。学生にも大学にも真の個性化が求められている。この二つは矛盾し衝突し合わないのか。大谷大学の場合はどうであろうか。

大谷大学は、学生の一人ひとりが真に各自自身に立ち戻るという仕方で「自己の信念の確立」を為すことを「最大事件」と認め、その事を樹立の精神としてきた大学である。「仏教と人間」が「共通科目」になっているのも、深く自己を見つめた釈迦や親鸞に学んで、自己を見つめることから出発するよりの大学の願いを表わしている。何を自分は今求めているのか。この事を真摯に問いつつ、自由に個性を育てて欲しい。それが我々の大学の個性化である。

短期大学部長 堀 尾 孟 (『大谷大学広報』93-春号、1995年)

### 〈開かれた大学へ—学習制度の多様化—〉

#### 「科目等履修生制度」と「聴講生制度」

大学の社会への開放と生涯学習の推進を図るうえから、大谷大学では従来の「聴講生制度」に加えて「科目等履修生制度」を、また大谷大学短期大学部では「聴講生制度」と「科目等履修生制度」の両方を今春より創設することになった。

これまでの「聴講生制度」は、あくまでも大学の授業を聴講することが目的の制度であり、資格取得のために必要な科目以外の単位の授与は行ってこなかった。

しかし、新しく創設された「科目等履修生制度」は、学習意欲を持ったさまざまな人が、在学生のために開設されている大学の授業科目を履修することによって、正規の授業科目の履修をしたものとして認められ、単位の授与が行われることになった。これに伴って、資格取得に限り単位を授与してきた「聴講生制度」は、今後、単位の授与を行わないこととした。

両制度ともに、いくつかの制限事項もあるが、これで単位の認定を目的とした「科目等履修生制度」と、聴講することを目的とした「聴講生制度」の二つの制度がこの4月からスタートすることになり、『学びたい』と思う人にはその目的にあった学び方が可能になったといえる。

#### 「科目等履修生制度」の種類

「科目等履修生制度」は、大谷大学では「コース履修生」と「科目履修生」の2種類があり、大谷大学短期大学部では「科目履修生」のみとなる。

「コース履修生」とは、大学が一つのテーマのもとに30単位分の科目をセットにして開設するもので、今春は《仏教研究コース》と《異文化研究コース》の2つのコースを開設することになった。

また「科目履修生」は、履修生自身が各自の目的と関心に応じて、自由に科目の選択が可能であり、科目数の制限は設けないことになっている。

いずれも1年以内で履修することが原則であり、授業を受けて試験に合格すれば、申請に応じて〈単位修得証明書〉を発行することになっている。

#### 本学に在学しながら他大学の科目等履修生

「科目等履修生制度」は、社会人の学習機会への対応や生涯教育の推進に対応することを念頭に置いた制度である。この制度のもう一つの大きな特徴は、大学に在学中の学生であっても

他大学の科目等履修生になれることである。もちろん先に述べたように、履修した科目の単位認定を履修先の大学で受けることが可能であるし、自分の所属する大学に科目等履修生で修得した単位を認定する規定があれば、卒業所要単位にも充当できることになる。

あるいは編入を希望する者は、編入後の履修計画をたてるうえでこの制度を活用できるし、また卒業後、独自に単位を積み上げて「学位授与機構」に申請する希望を持つ者も、在学中からその準備が可能になる。

いずれの場合においても「科目等履修生制度」は、努力して積み重ねた学習成果を、でき得る限り評価の対象として活用していけるという点が、従来の「聴講生制度」と大きく異なる点である。

### 学位取得への道

短期大学卒業生、高等専門学校卒業生および大学に2年以上在学して62単位以上取得している人が、この「科目等履修生制度」の履修生として取得した単位と合わせて124単位を「学位授与機構」に申請することによって、学士の学位（4年生大学卒業者に授与される学位）が取得できる道が開かれている。ただ、学位が授与されるためには幅広い教養科目や、専攻に係る包括的な科目あるいは専門的な内容を含む講義や演習が適切に含まれていることが必要で、そのうえ小論文などが試験として課せられるので、履修に際しては計画的に体系的な履修を心がける必要がある。

### 単位互換制度

それぞれの大学において、カリキュラムの編成上、他の大学に開講されている科目の履修が教育上有益であると判断する場合、その大学と単位（科目）を互換しあう制度が「単位互換制度」である。

京都では、今春から京都府下の28大学が、それぞれ大学間の垣根を超えて教育交流を進めようと、《京都・大学センター》が中心となって互いに単位を互換しあう包括的な「単位互換制度」を発足させた。

この制度の発足によって、4月以降は、単位互換協定を締結している大学から提供される科目を履修し、単位を修得すれば、本学の卒業所要単位に加算されることになった。また逆に、本学が提供する科目を他の大学の学生が履修しにくることにもなる。

互いに大学を訪れ、他の大学の授業を、数十にのぼる選択肢の中から選べることになるが、この制度は単に単位の互換にとどまらず、教育交流・学生交流によって生まれる学生への教育効果は大なるものがあると言える。

具体的な単位の認定先は、本学の科目区分の〈自由科目群〉を原則とするが、科目によっては〈学科指定科目群〉に認定する場合もあり、後に述べる「入学前の既修得単位」と合わせて30単位（本学短期大学部は15単位）を上限として単位認定することになる。

《京都・大学センター》に加盟し、単位互換協定を締結している大学から提供される科目の中には、例えば京都の伝統文化・芸能などをテーマに、複数の教員が授業を担当するリレー講義や、単位互換のために特別に特色ある講義を持ち出して開講する科目などもあり、バラエティーに富んだ編成となっている。

しかし、大学によっては自大学の通常授業を開放している大学や、集中講義の形態をとる大学などもあり、受講を希望する際には本学の時間割や、集中講義期間など、十分に配慮をしたうえで履修計画をたてる必要がある。

各大学の提供科目や、登録手続きなどの詳細については別途にガイダンスを行う予定である。

#### 単位認定の申請時期と60単位制限外の扱い

先に述べた、大学在学中の「科目等履修生制度」によって修得した単位や「単位互換制度」によって修得した単位の認定は、修得した年度の翌年度当初に行うことにしているため、4月のオリエンテーション期間中に単位認定の申請を受け付ける予定である。

従って、文学部4回生や短期大学部2回生の最終学年者は、科目の履修は可能であるが、単位認定はできないことになるので注意が必要である。

また、これら本学以外の大学または短期大学で修得する単位については、本学の60単位制限外の扱いとするが、1年間の履修単位は学内と学外を合わせて無理のない計画的な履修が必要であることは言うまでもない。

#### 入学前の既修得単位の認定

本学では、大学や短期大学を一度卒業し、あるいは中途退学し、改めて大谷大学や大谷大学短期大学部に入学した場合、あるいは「科目等履修生制度」によって修得した単位がある場合など、一般的に入学前に既に修得した単位がある場合は、これらの単位をそれぞれ本学で修得した単位として見なし、入学した年度当初に、先に述べた「単位互換制度」で認定される単位と合わせて30単位（本学短期大学部は15単位）を上限として単位認定することになった。

具体的な単位の認定先は、本学の科目区分の〈共通科目群〉と〈自由科目群〉を原則とするが、科目によっては〈学科指定科目群〉に認定する場合もあり、あるいは入学形態の違いや、他大学出身者か本学出身者かによって認定方法も異なるので、認定を希望する者は、所定の申請書類と成績証明書あるいは単位修得証明書の提出が必要である。

今春からスタートするこれらのさまざまな制度は、現代社会や学生諸君の多様なニーズに応えるために、大学が主体的に取り組んで創設したものである。この制度を有効に活用し、個性的で真の人間的な交流を行いうる、健全な人格の育悌の一助になることを願うものである。

教務課長 宇津木 秀 司（『大谷大学広報』94-春号、1994年）

#### 〈カリキュラムの大綱化〉

本学においては平成4年度において短期大学部の国文科を文化学科に改組し、平成5年度においては大学に国際文化学科を新設しました。これらの大学体制の検討と平行して、大学設置基準の大綱化に呼応しつつ、より教育効果を高めるためのカリキュラムの見直しが行われました。従来各学科ごとに独立し、硬直化してややもすれば学際的な、大局的視野を失いがちであった点を反省し、学生個々の個性の伸長を計り、豊かな人間性を涵養するカリキュラムを目指したのであります。

担当者会議、学科会議、主任会議、教授会など順次議論を重ねた結果、次の3点を骨子とする新カリキュラムが実現することとなりました。

- 授業科目区分の再編成
- 必修科目数の抑制
- 学科指定科目の学年指定の緩和

その大要は別表①、②（略）の通りですが、従来的一般教養・専門教育の科目区分を廃し、共通科目・学科指定科目・自由科目の3区分としたことに特色があります。

自由科目として開講される科目は内容的におよそ次の5群に区分されます。

- I群 教養的科目群
- II群 専門的科目群
- III群 語学科目群
- IV群 情報処理関連科目群
- V群 スポーツ科目群

I群は従来的一般教育科目とされていたものが中心であり、はば広い教養を得ることを目的とするものです。II群は各学科に共通する内容、もしくはいずれにも属さない科目の一群です。V群がまさしく従来的一般教育科目中の体育関連科目であります。

これらの自由科目に配当される単位数は、46単位であり、卒業所要単位の約37%と大きなウイットを占めています。このことは、自由科目はここに掲げる5群の開講科目から単位を取得する以外に、所属学科の学科指定科目の所定単位以上の取得、あるいは他学科の学科指定科目の履修による単位取得のいずれかの方法により取得できるものとされていることと関連しています。これは学生の自発的関心によって、専門研究のより高度な探求、専門研究に付随するテーマの研究、あるいは専門と直接関わらないいわば副専攻的な研究、または広く知見を深める科目の取得など、学生の自発的関心を大切にしつつ自由に選択させることを目的として設定されたものが「自由科目」であるからです。

永年必修としてきた体育科目について、自由選択科目として方向を転換することについては、決定の各段階においてかなり議論を重ね、またある段階では体育教育として反対の立場にたったことも事実でありました。知育・徳育と共に体育はバランスのとれた教育に不可欠であると考え、また、知育に偏しがちであり、かつそれを是とするような風潮を持つ文学部の大学であればこそ、運動と健康の知識はより必要であるとして従来全員に体育を必修としてきたのではなかったか、と自問する時、選択科目への方針転換には中々に首肯しがたいものがありました。

しかし、カリキュラムの改編は体育科目についてのみ行われるのではなく、全学的構想のもとで実施されるものであり、しかも語学や、各学科の専門科目にあっても所要単位の削減や必修指定の解除などが行われることになっています。これらのことを考えあわせる時、体育科目としても従来一般の体育教育の在り方を見直す機会と捉え、今後も体育教育について必要かつ十分な配慮はこれを行うをことを前提として、自由選択科目への移行に最終的合意をしたのであります。

#### 自由選択科目としての体育

本学の旧来のカリキュラムにおいては体育は次の通り開講していました。

講義	保健理論	半期	1単位
	体育理論	半期	1単位
実技	体育	3セメスター	2単位

今回のカリキュラムの改編に際しては、設置基準の改正にともなう時間・単位の計算も改め、次のように開講することとしました。

講義科目	通年	4単位
スポーツ研究	通年	2単位
スポーツ研究演習	通年	4単位

「講義科目」は、従来の通り保健的内容のものと、体育的内容のものとを2種開講することとしました。「スポーツ研究」は従来の体育実技に相当するものです。「スポーツ研究演習」は、体育実技の上級的内容に加え、若干の講義などを付加するものとして構想、出発をしました。

これらの科目は、前述の自由科目V群として開講されますが、これらの履修に際しては学年の指定、重複履修の制限、取得単位の上制限など一切の制約を設けることをしませんでした。この点に関しては、場合によっては自由科目として定められた46単位のほとんどすべてを体育関係の科目で充足することも可能となることであり、熟慮した点であります。

しかし、自由科目として構想される性格の一つが、専門領域における副次的なテーマの追及であるならば、体育科目といえども時にはそのような目的を持つものとして履修されることもある筈であり、むしろ「講義科目」や「スポーツ研究」などの開講内容を検討することによってこそ対応するべきではないのかという考えと、語学科目など自由科目として開講される他の科目との関連に配慮し、また、新しいカリキュラムの目的の一つが学生の内発的関心を大切にしようとするものであって、しかも学生が大学に期待するものがそれであるならば複数科目・複数単位の取得も認めるべきではないのかとの考えに立脚して、これらの制限を設けないことを決断しました。

ただし、あまりにも逸脱した単位取得については、聴講登録辞典での指導教員の指導に期待するものと考えています。

#### 体育授業の現状

体育関係の授業の現状は次の通りです。

##### A. 講義科目

体育系として「スポーツの心理」、保健系として「発育発達と高齢化社会」、の二科目を開講しています。前者の講義テーマは〈スポーツの場における心理的現象〉であり、後者は〈現代生活と運動不足〉です。

年度によるバラつきはありますが、ここ三年間における平均受講者は、体育系が78名、保健系が117名でした。いずれも一回生を中心に三回生まで聴講しています。一回生の平均聴講率は体育系6.6%、保健系9.4%でした。(なお、四回生がいないのは、新カリキュラム導入後三年しか経過していないからです)

##### B. スポーツ研究

従来のいわゆる体育実技ですが、大谷大学では毎週火曜日に4コマ、土曜日に2コマの計6コマを開講しています。受講者数は別表③(略)の通りであります。各回生に受講生がいますが、二回生以上では約半数弱が再度の履修者であり、又、各回生に複数科目受講者がいますので、実数は若干下回るものと思われます。また、カリキュラム改編後わずか3年間のデータにすぎませんから、確定的な結論は慎むべきであろうと思いますが、一応の傾向を見ることは可能かと思えます。

一回生の3年間の平均受講率は56.1%ですが、年々上昇の傾向にあることは特色として注意して良いかと思えます。また、女子学生の受講は二回生、三回生と学年が進行するにつれ極端に減少しているのが顕著となっています。

本学の体育は、すべて体育館およびキャンパス隣接のグラウンドにおいて行われ、種目もバレーボール・サッカー・バドミントン・バスケットボール・テニス(ソフト・硬式)・ソフトボール・卓球・プレイセラピーなど、特殊なものは何もありません。しかし受講率が上昇して



いることは、ひとつには体育についてのイメージの変化と捉えて良いのではないのでしょうか。学生は自分で選択した科目ですから、授業に対する取り組み姿勢が積極的であり、この点で従来の必修体育とは大きく違うというのがわれわれ体育教員の感想であります。また、この点では体育に取り組む学生の楽しさが違うと言ってよいのでしょうか。その楽しそうな様子を学生たちは体育館やグラウンドで目の当たりにし、友人同志の会話から耳にする。高校までの管理主義的な雰囲気とする「体育」とは違う、というのが学生に理解されてきたのではないかと分析しています。

この意味では、体育館・グラウンドがキャンパス内にある本学の事情は幸いしていると言ってよいでしょう。また、体育施設が学内にあって移動などの時間を必要とすること無く、体育が1コマの時間内で完結することも、今回のカリキュラム改編の直接の関連はないが、学生が選択科目としての体育を履修する動機づけとして意味あることと考えられます。

また、ゼッケンにしても毎回洗濯をしたきれいなものを使い、サッカーのキーパーのグローブもこまめに乾燥させ消臭剤をかけておくなど、われわれ体育教員の細かな配慮に加え、大学当局の理解による費用面の支援も、見えざる要因として挙げることができると言えます。

### C. スポーツ研究演習

スポーツ研究は2単位であるのに対し、この科目は4単位であり、単なる実技の上級クラスと捉えて若干安易に履修する傾向があったことと、演習科目の性格をより明確にするため、本年度から次のような内容としています。体育教員のそれぞれの専門にしたがい、次の4コースを設定しています。

#### a 運動生理学コース

トレーニング方法と処方、スポーツ障害と対処法

#### b 発達運動学的コース

発育発達段階に応じたスポーツ技法や行動科学的処方など

#### c 運動文化論的コース

運動文化・スポーツ種目の成立と発展および生涯スポーツへの展開

#### d 民俗学的コース

遊び・稽古・スポーツと鍛える・競争などの庶民生活での展開

各コースとも半期で完結するよう設定しています。受講生は前・後期に1コースずつ履修し、通年で2コースを受講することとなります。また、各コースとも運動能力測定、記録の分析、体育実技、講義、学生の発表などを内容とし、健康の理解から、チームワーク・リーダーシップの理解、ストレスの解緊、メンタルトレーニングなどを学習目標とするものとして設定しています。

本年度の受講生は一回生から三回生までで75名でありました。本年からの内容の編成替えにより減少する結果となっています。

以上が、本学の選択制導入後の体育科目の現状です。いずれにしろ、学生の学習意欲は高く、授業はし易くなったというのがわれわれの偽わらざる感想です。出席率は向上し、受講生の単位取得率も従来の約90%から、5%程度上昇しています。また、このことは、アンケートにおいて体育受講の理由の中で、教員免許取得のためと回答したものが、大幅に後退したことも興味ある事実として注意されて良いと思います。

## まとめ

以上、現在のところ本学における体育科目の自由選択制への移行は、概ね良好な経緯をたどっていると言って良いかと思えます。

しかし、体育科目を履修しない学生が出現している現状において、体育の必要性についての検討は継続されなければならないと思えます。

今後の課題としてはシーズン種目や学外施設の利用による集中科目の開講などがあります。

また技術的な問題として、複数年履修者のための、上級クラスの設定や、潜在的体育履修希望者（身体は動かしたいが運動は苦手というような人たち）のための、より受講しやすいコース設定なども考慮すべきでしょう。また、現在のところ単位の取得制限を要するようなケースの発現は無いようですが、今後もこの点には注意を払わなければいけないと考えています。

さらに、体育を文化現象として捉えるなど、文科系学問との接点が更に模索できれば良いのではないかと考えています。本学では、仏教の立場や哲学・文学・社会学などさまざまな観点から「人間とはなにか」を問う、「人間学」と呼ぶ科目を共通科目の中の総合科目として開講し、全員必修としていますが、自然科学の教員とともに、本年度からは文学部長の要請に応え、体育の教員もこの科目を担当し「美しいスポーツと人間」をテーマとした講義をおこなっています。

このように、大学の中で体育科目とはどのような性格をもたなければならないのか、どのように大学建学の精神を語りうるのか、などの検討が自由選択科目となった体育科目の将来の展望を示唆するものを持つのではないかとも思われます。

教授 瀬戸 進 (『大学体育』)

## 2. 開講科目

### (1) カリキュラム改編に伴う新しい科目区分

本学は「仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教ならびに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する」(学則第1条)という目的を達成するため、常に効果的な教育課程を追求し、有効なカリキュラムに配慮を払ってきた。

その意味において、一般に設置基準の大綱化と呼ばれる「大学設置基準」の改正が平成3年7月施行されるや、本学はいち早くその趣旨を理解し、カリキュラムの改編を行った。文学部においては1992(平成4)年4月、短期大学部においては1993(平成5)年4月から、従来的一般教育科目・専門教育科目からなる科目区分を改め、新たに本学独自の共通科目・学科指定科目・自由科目の3区分とした。

これは、従来学問系列ごとに細かく履修の指定を行ってきたカリキュラムを改訂し、必修科目を最低限度に抑え、専門的な科目の履修とともに、より広く学生の関心や到達度に応じた自由な履修計画を展開しうる柔軟なカリキュラム体系の構築を目指したものである。

全学に共通して開設する共通科目には、第1外国語(英語)、第2外国語(ドイツ語・フランス語・中国語)の語学のほか、本学独自の科目として、人間学を配している。人間学は、釈尊・親鸞を通して自己そのものを根源的に問うことを学ぶとともに、人間のあらゆる営みを通じて人間とはどのようなものであるか探求しようとするものである。

専門分野の学習の核となる学科指定科目には、基礎科目・概論・講義・講読・演習・卒業論文(短期大学部においては卒業研究)からなる専門科目を配し、学年に応じた段階的な履修を行え

るように配置している。

自由科目は、「教養的科目群」、「専門的科目群」、「語学科目」、「情報処理関連科目」、「スポーツ科目」、「国際交流科目」の6群より構成し、幅広い学習ができるよう配慮している。また、自由科目の履修にあたっては、卒業所用124単位中の46単位を配しているが、3つのパターンより自由に選択できる。

- ①専攻する専門科目の課せられた単位以上の取得単位により充足する
- ②他学科に開講される専門科目の聴講により充足する
- ③自由科目として開講される6群の中から自由に充足する。

これらにより、副専攻的なテーマの追求や、一つのテーマを徹底的に探究するなど、学生の興味関心に応じた多様な学習活動が可能となっている。

## (2) シラバス（『授業概要』）の導入

科目履修に際しての選択の幅を広げ、且つ他学科の聴講が従前にもまして可能となったため、大学が開講する全ての科目の概要について、全学的に明示する必要が論じられ、1992（平成4）年4月より、シラバス（『授業概要』）を導入した。

初年度である1992年に企画された『授業概要』は、従来の便覧の形態を継承し、講義概要・テキストを1科目につき数行程度記載する過渡的なものとした。翌1993（平成5）年4月からは、B5版1頁に1科目を掲載するフォーマットを採用し、科目区分・授業科目名・担当者・年間の授業テーマ、及びサブテーマ・成績評価の基準・テキスト・参考書・授業目標・授業計画を前期・後期ごとに記載した。

このシラバスは、大学・短期大学毎に1冊とし、全学生に配布した。シラバスの導入により、全授業科目の概要が登録前に伝わるようになり、履修科目選択時の重要な判断材料となっている。

## (3) 大学院における科目区分

大学院の科目区分は、従来、各専攻ごとに配置される特殊研究Ⅰ（講義）、特殊研究Ⅱ（文献研究）、特殊研究Ⅲ（演習）からなる「主要科目」と、各専攻に関する幅広い科目を共通して開講する「関連科目」とで構成され、修士課程は32単位、博士後期課程は12単位の単位修得が義務づけられている。

1995（平成7）年4月、修士課程について、学部の専門教育を基礎として本格的な専門研究を始める課程であることをより強化するため、「基礎科目」を課すこととした。これは各専攻ごとに研究法や基礎的な概念の把握、テキスト・資料の読解力など、基礎学力を徹底的に訓練することを目的とした基礎研究などを内容とする。

この結果、修士課程のカリキュラムは「基礎・主要・関連」の3区分となり、履修単位も44単位と充実された。

その他、1992（平成4）年からは、学術研究における国際交流を図り、本学の研究活動を活性化するため、世界各地で活躍する第一線の学者を客員教授として招聘する大学院特別セミナーを開講した。

また、1993（平成5）年4月から、真宗大谷派の最高の学事行事である安居を単位として認定することとした。真宗大谷派が毎年本学を会場として、夏期2週間開講する安居を聴講した場合、「関連科目」の文献研究の単位として認定するものである。

さらに、龍谷大学大学院との単位互換協定は従来通り取り扱われて単位の認定を相互に行って

いる。

大学院にあっては、近來の取り組みとして、これら他機関・他大学大学院などとの交流により、視野を拡大し、研究が更に充実するような施策を講じてきたのである。

#### (4) 開講科目一覧

大谷大学文学部・大学院、大谷大学短期大学部における平成7年度の開講科目は次の通りである。

### 1995（平成7）年度 文学部開講科目

#### a. 共通科目

##### 外国語科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
英語	英文を英文として読む読解力を伸ばす	講 師 渡辺 範征
英語	英語力の向上	講 師 石川 渉
英語	英語（総合）	講 師 辰巳 實
英語	総合的英語力の養成	講 師 平沢 悦子
英語	英語の表現に対する理解力の向上と鑑賞力の涵養	講 師 桂山 康司
英語	リスニングとリーディングを中心とした総合的英語技能の養成	講 師 上枝 美典
英語	reading, listening, speaking の基礎的学力の養成	講 師 山本 岩夫
英語	アメリカ小説の味読	講 師 岩田 強
英語	イギリスの現代演劇を読む	講 師 丸橋 良雄
英語	1. 日常会話の英語 2. 太平洋地域の現代史	講 師 島田 美穂
英語	英語の基礎学力養成と英国文化理解	助 授 築山 修道
英語	英語で学ぶ日本文化	講 師 鈴木 雅恵
英語	1. 日常会話の英語 2. 太平洋地域の現代史	講 師 島田 美穂
英語	アメリカ小説の味読	講 師 岩田 強
英語	総合的な英語力の養成	講 師 平沢 悦子
英語	教養英語	専任講師 榎原 孝
英語	英語の基礎学力養成と英国文化理解	助 授 築山 修道
英語	語根を知って語彙を大幅に増やす	専任講師 樋口 章信
英語	アメリカの代表作家の短編を読む	教 授 米本 義孝
英語	英語基礎力の向上	講 師 山口美知代
英語	John Wilson, Delightful Hours with American Authors	講 師 古川 弘之
英語	英語を通じて西洋文化に対する理解を深める	講 師 恵谷 弥生
英語	生きた英語の読解・聴解力と応用力を身につける	講 師 渡辺 範征
英語	reading, listening, speaking の基礎的学力の養成	講 師 山本 岩夫
英語	英文エッセイの読解	講 師 菱木 政晴
英語	総合的な英語力の養成	講 師 平沢 悦子
英語	英詩を通じてイギリス人の季節感及び自然観を学び、英語を考える	講 師 大西 一生
英語	総合的な英語力の養成	講 師 平沢 悦子
英語	英語（総合）	講 師 辰巳 實
英語	英文を英文として読む読解力を伸ばす	講 師 渡辺 範征
英語	英詩を通じてイギリス人の季節感及び自然観を学び、英語を考える	講 師 大西 一生
英語	総合的英語力の養成	講 師 平沢 悦子
英語	John Wilson, Delightful Hours with American Authors	講 師 古川 弘之
英語	総合的英語力の養成	講 師 平沢 悦子

英語	ハーディとロレンスの教養小説と短編小説を読む	講 師	前川 哲郎
英語	1. 日常会話の英語 2. 太平洋地域の現代史	講 師	島田 美穂
英語	1. 日常会話の英語 2. 太平洋地域の現代史	講 師	島田 美穂
英語	英語の表現に対する理解力の向上と鑑賞力の涵養	講 師	桂山 康司
英語	英国の正統性の意味を問う	講 師	野上 憲男
英語	英語基礎力の向上	講 師	山口美知代
英語	英語力の向上	講 師	渡辺 範征
英語	英語で学ぶ日本文化	講 師	鈴木 雅恵
英語	英語力の向上	講 師	渡辺 範征
英語	現代アメリカの諸相を理解し自文化を知る	専任講師	樋口 章信
英語	歌を通して英語を身につける	講 師	渡辺 範征
英語	教養英語	専任講師	櫛原 孝
英語	教養英語	専任講師	櫛原 孝
英語	英語（総合）	講 師	辰巳 實
英語	英語力の向上	講 師	石川 渉
英語	英語（総合）	講 師	辰巳 實
英語	読解を中心とした実践的英語力の養成	講 師	上枝 美典
英語	読解を中心とした実践的英語力の養成	講 師	上枝 美典
英語	読解力を高める	講 師	宮内 弘
英語	アメリカの現代演劇を読む	講 師	丸橋 良雄
英語	アメリカの現代演劇を読む	講 師	丸橋 良雄
英語	ヨーロッパを知る	講 師	市橋 弘道
英語	シェイクスピアへの案内書を通して英国の人間と文化のあり方にふれる	講 師	坂本 武
英語	小説をとおして「家族」を考える	講 師	市橋 弘道
英語	読解力および聴解力の向上	講 師	東 治子
英語	推理小説を読む	講 師	高谷 修
英語	アメリカを代表する名演説を通してアメリカの歴史を概観する	講 師	坂本 武
英語	イギリスの食生活を知る	講 師	市橋 弘道
英語	イギリス小説を読む	講 師	高谷 修
英語	イギリスを知る	講 師	市橋 弘道
英語	英語の基礎学力養成と外国人の日本観再考	助 教 授	築山 修道
英語	読解を中心とした実践的英語力の養成	講 師	上枝 美典
英語	教養英語	専任講師	櫛原 孝
英語	講読	講 師	辻 昭三
英語	英文講読	講 師	辻 昭三
英語	英書講読	講 師	辻 昭三
英語	英書講読	講 師	辻 昭三
英語	読解力および聴解力の向上	講 師	東 治子
英語	英語力の向上	講 師	石川 渉
英語	英語力の向上	講 師	渡辺 範征
英語	英語	講 師	辰巳 實
英語	教養英語	専任講師	櫛原 孝
英語	英語	講 師	辰巳 實
ドイツ語	ドイツ語初級文法	講 師	川口 晃
ドイツ語	基礎ドイツ語	講 師	福原 意玄
ドイツ語	ドイツ語初級文法入門	講 師	小野 良世
ドイツ語	ドイツ語に慣れ親しむ	講 師	山本 雅昭
ドイツ語	ドイツ語文法と簡単なドイツ語の読解	講 師	青地 伯水
ドイツ語	ドイツ語初級読本	講 師	西本 美彦
ドイツ語	ドイツ語の初級文法	講 師	橋本 兼一
ドイツ語	ドイツ語入門	教 授	大河内了義

ドイツ語	ドイツ語初級文法の修得	講師	小寺昭次郎
ドイツ語	ドイツ語初級	講師	伊東 史明
ドイツ語	ドイツ語初級文法	助教授	禿 憲仁
ドイツ語	ドイツ語初級	講師	伊東 史明
ドイツ語	ドイツ語の基礎を学ぶ	教授	友田 孝興
ドイツ語	文法読本に基づくドイツ語入門	講師	小野 良世
ドイツ語	ドイツ語初級	講師	川口 晃
ドイツ語	ドイツ語の基礎	講師	福原 意玄
ドイツ語	会話読本による中級ドイツ語入門	講師	小野 良世
ドイツ語	文法直後の読書力の養成	講師	吉村 博次
ドイツ語	中級程度のドイツ語の理解と習熟	講師	小寺昭次郎
ドイツ語	ドイツ語読解	講師	伊狩 裕
ドイツ語	中級ドイツ語	講師	星野 純子
ドイツ語	ドイツ語中級	講師	伊東 史明
ドイツ語	ドイツ語の読解	講師	青地 伯水
ドイツ語	初級から中級へ	講師	川口 晃
ドイツ語	中級ドイツ語	講師	星野 純子
ドイツ語	初級から中級へのドイツ語	講師	林 湛秀
ドイツ語	ドイツ語読本（初級～中級）	助教授	禿 憲仁
フランス語	フランス語基本文法	教授	加来 一丸
フランス語	フランス語初級読本	講師	多田 順子
フランス語	フランス語初級文法の把握	講師	杉山 朱実
フランス語	フランス語の基本表現の習得	講師	野村 直正
フランス語	フランス語基本文法の習得	講師	野村 直正
フランス語	フランス語の基本表現の習得	講師	野村 直正
フランス語	フランス語の基礎	専任講師	番場 寛
フランス語	フランス語の基本単語と表現の仕方	講師	丹治恒次郎
フランス語	フランス語の基礎学習	講師	岩見 至
フランス語	フランス語基礎会話・講読	講師	森井 正史
フランス語	フランス語文法	講師	西井 元昭
フランス語	フランス語初級講読	講師	元木 淳子
フランス語	使えるフランス語	専任講師	番場 寛
フランス語	初級フランス語	講師	多田 順子
フランス語	フランス語文法の再修	講師	西井 元昭
フランス語	フランス語基礎文法講読	講師	森井 正史
フランス語	フランス語中級講読	講師	森井 正史
フランス語	フランス語講読	講師	元木 淳子
フランス語	生きた中級フランス語	助教授	並木 治
フランス語	中級フランス語の講読	講師	西井 元昭
フランス語	日常生活の中のフランス語	講師	森本 美和
フランス語	中級フランス語	講師	多田 順子
フランス語	フランス語の読解と基本表現の習得	講師	野村 直正
フランス語	フランス語基礎学力の再構築	講師	岩見 至
中国語	中国語入門	講師	森 博達
中国語	やさしい中国語入門	講師	胡 宝華
中国語	基礎力の養成	講師	今場 正美
中国語	中国語の基礎力を身につける	専任講師	渡部 洋
中国語	基礎中国語	講師	愛甲 弘志
中国語	基礎中国語	講師	劉 建
中国語	中国語に親しみながら、その初歩を習得する	講師	齋藤 希史
中国語	基礎中国語	講師	劉 建
中国語	中国語入門	講師	松田 佳子
中国語	中国語の基礎力の養成	講師	文 楚雄

中国語	会話を通した中国語の基礎	講師	江田 憲治
中国語	やさしい中国語入門	講師	胡 宝華
中国語	中国語の正確な発音と文法構造の把握、簡単な会話能力を得る	講師	高田 時雄
中国語	やさしい中国語入門	講師	胡 宝華
中国語	中国語に親しみながら、その初歩を習得する	講師	齋藤 希史
中国語	中国語の基礎力を身につける	専任講師	渡部 洋
中国語	基礎中国語	専任講師	李 青
中国語	「中国語入門」	講師	施 超倫
中国語	中国語の第一歩	専任講師	李 青
中国語	「中国語入門」	講師	施 超倫
中国語	基礎中国語	講師	鵜飼 光昌
中国語	基礎力の養成	講師	今場 正美
中国語	中国語と中国理解	講師	施 超倫
中国語	中国語と中国理解	講師	施 超倫
中国語	読解力の養成	講師	文 楚雄
中国語	中国語に親しむ	講師	愛甲 弘志
中国語	大学中国語中級講読	講師	胡 宝華
中国語	中級中国語	講師	松田 佳子
中国語	初級中国語学力の充実	講師	矢放 昭文
中国語	中国の新聞記事の読解	講師	江田 憲治
中国語	読解力の向上と中国の歴史、社会、文化への入門を兼ねる	講師	高田 時雄
中国語	中国語の基礎完成と中国理解	専任講師	桂華 淳祥
中国語	読解力の養成	講師	今場 正美
中国語	中国語の基礎完成と中国理解	講師	劉 建

総合科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	教授 神戸 和磨 専任講師 山野 俊郎
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	助教授 江上 浄信 専任講師 織田 顕祐
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	助教授 延塚 知道 助教授 小谷 信千代
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	助教授 安藤 文雄 助教授 宮下 晴輝
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	専任講師 泉 恵機 教授 片野 道雄
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	教授 安富 信哉 助教授 白館 戒雲
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	助教授 藤嶽 明信 教授 舟橋 尚哉
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	専任講師 加来 雄之 助教授 兵藤 一夫
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	助教授 三明 智彰 教授 吉元 信行
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	専任講師 樋口 章信 教授 木村 宣彰
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	専任講師 一楽 真 助教授 一色 順心
人間学 I	親鸞・人と思想 仏教と人間	専任講師 山野 俊郎 教授 神戸 和磨

人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	専任講師 織田 顕祐 助 教授 江上 浄信
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	助 教授 小谷 信千代 助 教授 延塚 知道
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	助 教授 宮下 晴輝 助 教授 安藤 文雄
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	教 授 片野 道雄 専任講師 泉 恵機
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	教 授 舟橋 尚哉 助 教授 藤嶽 明信
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	助 教授 兵藤 一夫 専任講師 加来 雄之
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	教 授 木村 宣彰 専任講師 樋口 章信
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	助 教授 一色 順心 専任講師 一楽 真
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	助 教授 白館 戒雲 教 授 安富 信哉
人間学 I	仏教と人間 親鸞・人と思想	教 授 吉元 信行 助 教授 三明 智彰
人間学 II-1	清沢満之に学ぶ ー日本近代思想と真宗ー	助 教授 安藤 文雄
人間学 II-2	仏跡と求法者の旅	教 授 長崎 法潤
人間学 II-3	大学の現在	教 授 鈴木 幹雄
人間学 II-4	現代日本の思想	助 教授 門脇 健
人間学 II-5	伝統についてのもう一つの見方	助 教授 滝口 直子
人間学 II-6	文学と人生	助 教授 沙加戸 弘
人間学 II-7	人間の科学	教 授 日下部有信
人間学 II-8	スポーツの素晴らしさと人間	専任講師 中森 一郎
人間学 II-9	『歎異抄』と現代	専任講師 加来 雄之
人間学 II-10	仏教の心理学	専任講師 織田 顕祐
人間学 II-11	現代社会における死の諸相	専任講師 渡辺 啓真
人間学 II-12	悩みと非行の人間学	教 授 酒井 汀
人間学 II-13	「近代化」について考える	助 教授 高井 康弘
人間学 II-14	変革期の思想 ー蓮如と真宗教団ー	助 教授 草野 顕之
人間学 II-15	青年期の思想と表現	助 教授 荒井とみよ
人間学 II-16	異文化との出会い	教 授 大河内了義
人間学 II-17	人間と環境問題	教 授 日下部有信

## b. 学科指定科目

### 真宗学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
真宗基礎学A	真宗とは何か	助 教授 三明 智彰
真宗基礎学B	真宗とは何か	専任講師 一楽 真
真宗学概論 1	顕真実の教証	教 授 白井 元成
真宗学概論 2	救済と自証	教 授 小野 蓮明
真宗学講義 1	愚禿親鸞 ーその人と生涯に学ぶー	助 教授 安藤 文雄
真宗学講義 2	救済の自覚	講 師 松井 憲一
真宗学講義 3	親鸞の生と死 ーデス・エデュケーションの立場からー	講 師 田代 俊孝
真宗学講義 4	善導の浄土教思想	教 授 白井 元成
真宗学講義 5	法然の思想	助 教授 江上 浄信
真宗学講義 6	本年度休講	



真宗学講義 7	日本近代と教学者清沢満之	専任講師	樋口 章信
真宗学講義 8	蓮如の生涯と思想	助 教授	三明 智彰
真宗学講義 9	親鸞の二種回向観	講 師	瀧 弘信
真宗学講義 10	「戦後史の中の真宗」 —真宗同朋会運動の願いと歩みに学ぶ	講 師	福島 和人
教行信証 1	「教文類」・「行文類」を読む	教 授	臼井 元成
教行信証 2	『教行信証』（親鸞の思想）	助 教授	延塚 知道
教行信証 3	「証の巻」、「真仏土の巻」を読む	教 授	神戸 和磨
教行信証 4	『教行信証』化身土巻を読む	教 授	安富 信哉
真宗学基礎講読A	『選択集』を読む	助 教授	藤嶽 明信
真宗学基礎講読B	『選択集』を読む	助 教授	安藤 文雄
真宗学基礎講読C	『選択集』を読む	専任講師	加来 雄之
真宗学講読 1	大無量寿経に学ぶ	専任講師	一楽 真
真宗学講読 2	観無量寿経に学ぶ	助 教授	藤嶽 明信
真宗学講読 3	『浄土論註』を読む	専任講師	加来 雄之
真宗学講読 4	本年度休講		
真宗学講読 5	本年度休講		
真宗学講読 6	本年度休講		
真宗学講読 7	近代日本における仏教とキリスト教との対話	専任講師	樋口 章信
真宗学演習 1	『歎異抄』に学ぶ	教 授	臼井 元成
真宗学演習 2	歎異抄に学ぶ	教 授	小野 蓮明
真宗学演習 3	歎異抄	教 授	神戸 和磨
真宗学演習 4	『歎異抄』に学ぶ	教 授	安富 信哉
真宗学演習 5	歎異抄に学ぶ	助 教授	江上 浄信
真宗学演習 6	『歎異抄』（親鸞の思想）	助 教授	延塚 知道
真宗学演習 7	『歎異抄』に学ぶ	助 教授	三明 智彰
真宗学演習 8	『歎異抄』に学ぶ	教 授	臼井 元成
真宗学演習 9	『歎異抄』に学ぶ	教 授	小野 蓮明
真宗学演習 10	歎異抄	教 授	神戸 和磨
真宗学演習 11	『歎異抄』に学ぶ	教 授	安富 信哉
真宗学演習 12	歎異抄に学ぶ	助 教授	江上 浄信
真宗学演習 13	『歎異抄』（親鸞の思想）	助 教授	延塚 知道

仏教学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
仏教基礎学A	釈尊の生涯と仏教の基礎知識	教 授 鍵主 良敬
仏教基礎学B	釈尊の生涯と仏教の基礎知識	教 授 片野 道雄
仏教学概論 1	仏教の基本思想	教 授 小川 一乗
仏教学概論 2	中国仏教における念仏三昧の思想	教 授 福島 光哉
仏教学講義 1	インド仏教の源流	教 授 片野 道雄
仏教学講義 2	中国浄土教教理史	教 授 三桐 慈海
仏教学講義 3	原始仏教の源流	教 授 長崎 法潤
仏教学講義 4	インド仏教史	助 教授 宮下 晴輝
仏教学講義 5	Ojoyoshu	専任講師 R.F. Rhodes
仏教学講義 6	瑜伽唯識思想の研究	教 授 舟橋 尚哉
仏教学講義 7	チベットの文化と社会について	助 教授 白館 戒雲
仏教学講義 8	本年度休講	
仏教学講義 9	中国仏教思想の形成	教 授 木村 宣彰
仏教学講義 10	唯心と唯識の研究 —智慧の心理学—	教 授 鍵主 良敬
仏教学講義 11	日本天台思想史	講 師 白土 わか
仏教学講義 12	菩薩の諸相	講 師 杉本 卓洲
仏教学講読 1	本年度休講	
仏教学講読 2	初期パーリ語経典の研究	助 教授 小谷信千代

仏教学講読3	サンスクリット文献の講読	助 教授	宮下 晴輝
仏教学講読4	『サキヤ・レクジェ』の講読	助 教授	白館 戒雲
仏教学講読5	『妙法蓮華経』	教 授	福島 光哉
仏教学講読6	大般涅槃経	教 授	古田 和弘
仏教学講読7	華嚴経	助 教授	一色 順心
仏教学講読8	天台四教儀	専任講師	山野 俊郎
仏教学講読9	十地経論	専任講師	織田 顕祐
仏教学講読10	サンスクリット・バガヴァッド・ギーター	講 師	小林 圓照
仏教学講読11	欧文仏典講読	専任講師	山野 俊郎
仏教学講読12	Walpola Rahula's What the Buddha Taught	専任講師	R.F. Rhodes
仏教学基礎講読A	維摩経	助 教授	一色 順心
仏教学基礎講読B	維摩経	専任講師	織田 顕祐
仏教学基礎講読C	維摩経	専任講師	山野 俊郎
仏教学演習1	原始仏教における説話と伝承の世界	教 授	吉元 信行
仏教学演習2	Prasannapada の解読研究	教 授	小川 一乗
仏教学演習3	中辺分別論 一初期唯識論書一	教 授	舟橋 尚哉
仏教学演習4	撰大乘論の解読研究	教 授	片野 道雄
仏教学演習5	『華嚴五教章』	教 授	鍵主 良敬
仏教学演習6	法華経玄論	教 授	三桐 慈海
仏教学演習7	『法華文句』	教 授	福島 光哉
仏教学演習8	法華経	教 授	古田 和弘
仏教学演習9	法華経	教 授	木村 宣彰
インド学基礎講読	インド学入門	助 教授	兵藤 一夫
インド学演習	インド学研究の方法	教 授	長崎 法潤

哲学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
哲学入門	読書と思索	教 授 池上 哲司 教 授 堀尾 孟 助 教授 須藤 訓任 助 教授 門脇 健 専任講師 渡辺 啓真
哲学科講義1	西洋近世哲学史	助 教授 須藤 訓任
哲学科講義2	西洋中世哲学史	講 師 小浜 善信
哲学科講義3	本年度休講	
哲学科講義4	現代フランス哲学の諸問題	講 師 水野 和久
哲学科講義5	倫理学の諸問題	講 師 寺崎 峻輔
哲学科講義6	われわれは個人としてどこまで責任を負いうるか	教 授 池上 哲司
哲学科講義7	本年度休講	
哲学科講義8	比較宗教学 比較宗教学とは何か、その歴史と課題	教 授 武田 武磨
哲学科講義9	本年度休講	
哲学科講義10	現代における宗教の諸問題	講 師 大屋 憲一
哲学科講義11	キリスト教神学概論	講 師 土肥 昭夫
哲学科基礎講読A	西洋哲学の基本問題とその歴史	助 教授 須藤 訓任
哲学科基礎講読B	倫理学の基礎的諸問題	専任講師 渡辺 啓真
哲学科基礎講読C	宗教学入門	助 教授 門脇 健
哲学科講読1	Platon, Menon, Charmides.	教 授 箕浦 恵了
哲学科講読2	Karl R. Popper; The Poverty of Historicism	講 師 寺崎 峻輔
哲学科講読3	歴史と人間	教 授 池上 哲司
哲学科講読4	D. Copp, "Metaethics"	講 師 安彦 一恵
哲学科講読5	科学と哲学	教 授 堀尾 孟
哲学科講読6	Whitehead, SYMBOLISM	助 教授 門脇 健



教育学講義 4	表現と人間形成	講 師	小林 恭
教育学講義 5	本年度休講		
教育学基礎講読A	教育学の基礎	専任講師	杉原 保史
教育学基礎講読B	「受験」からみた学校教育の歴史	専任講師	関口 敏美
教育学講読 1	ロジャーズの「援助的関係の特徴」を原書で読む	教 授	酒井 汀
教育学講読 2	ラッセル教育論をどう読むか	助 授	大西 正倫
教育学講読 3	「国民学校」の教育とは何であったか	専任講師	関口 敏美
教育学講読 4	教育学の現象学的考察	講 師	川村 寛昭
教育学講読 5	ボードリヤールを読む	助 授	寺林 脩
教育学演習 1	教育をめぐる諸問題	専任講師	杉原 保史
教育学演習 2	私たちと「教育問題」	専任講師	関口 敏美
教育学演習 3	人間と教育	教 授	大竹 鑑
教育学演習 4	教育をめぐる諸問題	専任講師	杉原 保史
教育学演習 5	現代における教育の諸問題	専任講師	関口 敏美

史学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
史学研究法A・B	史料を読んで歴史を書くということを学ぶ	専任講師 教 授	宮崎 健司 滋賀 高義
日本史学概論 1	日本文化史の課題	教 授	豊島 修
日本史学概論 2	日本仏教史を学ぶ	助 授	草野 顕之
日本史学講義 1	律令公民制の研究	講 師	鎌田 元一
日本史学講義 2	日本中世の国家と仏教	講 師	平 雅行
日本史学講義 3	韓国・朝鮮史を通して東アジアと日本の歴史を考える	助 授	鄭 早苗
日本史学講義 4	王朝貴族の生活と文化	教 授	佐々木令信
日本史学講義 5	本年度休講		
日本史学講義 6	本年度休講		
日本史学講義 7	近世村落生活文化史	教 授	豊島 修
日本史学講義 8	近代の親鸞観	講 師	福島 和人
日本史学講義 9	日本仏教の朝鮮伝道	助 授	木場 明志
日本史学講読 1	江戸時代前期の文化	講 師	谷端 昭夫
日本史学講読 2	日本中世の絵画資料の講読	講 師	西山 克
日本史学講読 3	本年度休講		
日本史学講読 4	遺物文字史料	講 師	堅田 修
日本史学講読 5	漢文史料	専任講師	宮崎 健司
日本史学講読 6	和様漢文	助 授	草野 顕之
日本史学講読 7	本年度休講		
日本史学講読 8	公文書にみる近代的改革と旧慣習の周辺	助 授	木場 明志
日本史学演習 1	奈良朝の政治と文化	専任講師	宮崎 健司
日本史学演習 2	平安京・貴族の生活と文化	教 授	佐々木令信
日本史学演習 3	中世の国家と仏教	教 授	名畑 崇
日本史学演習 4	中世社会と本願寺	助 授	草野 顕之
日本史学演習 5	中近世の都鄙の生活	教 授	豊島 修
日本史学演習 6	日本近代の宗教	助 授	木場 明志
日本史学演習 7	街角の歴史 一京都地域史研究一	教 授	大桑 斉
日本史学演習 8	韓国・朝鮮と日本に関わる歴史、社会の史料演習	助 授	鄭 早苗
日本史学基礎講読A	史料解読と学説	助 授 教 授	木場 明志 豊島 修
日本史学基礎講読B	日本仏教史基礎史料	教 授	佐々木令信
東洋史学概論 1	中国の古代と中世	助 授	大内 文雄
東洋史学概論 2	中国仏教史概論	教 授	滋賀 高義

東洋史学講義 1	旧中国の政治と社会	講 師	梅原 郁
東洋史学講義 2	日宋文化交流の諸問題	講 師	藤善 眞澄
東洋史学講義 3	韓国・朝鮮史を通して東アジアと日本の歴史を考える	助 授	鄭 早苗
東洋史学講義 4	中国中世の政治と文化	助 授	大内 文雄
東洋史学講義 5	漢字文化圏の成立と発展	教 授	竺沙 雅章
東洋史学講義 6	中国征服王朝期における社会と文化の変容	教 授	藤島 建樹
東洋史学講義 7	漢代のシルクロード	講 師	富谷 至
東洋史学講義 8	宋代の士大夫と仏教	教 授	安藤 智信
東洋史学講義 9	本年度休講		
東洋史学講読 1	晉・陳壽 撰『三國志』巻一・魏書武帝紀	助 授	大内 文雄
東洋史学講読 2	王安石の臨川先生文集	教 授	安藤 智信
東洋史学講読 3	本年度休講		
東洋史学講読 4	『資治通鑑』唐紀	講 師	辻 正博
東洋史学講読 5	中国近代史講読	講 師	狭間 直樹
東洋史学講読 6	中国史関係現代文献選読	専任講師	桂華 淳祥
東洋史学講読 7	『三国史記』を読む	助 授	鄭 早苗
東洋史学基礎講読A	東洋史研究の基礎 —史料の解読と論文の把握	助 授	大内 文雄
東洋史学演習 1	東洋史研究における諸問題 —思想・文化	助 授	大内 文雄
東洋史学演習 2	東アジア世界の展開 —政治・社会—	教 授	藤島 建樹
東洋史学演習 3	東洋史研究における諸問題 —編年史の序を読む	助 授	大内 文雄
東洋史学演習 4	『廿二史劄記』	教 授	藤島 建樹
東洋史学基礎講読B	中国仏教史概論の解読	教 授	安藤 智信
東洋史学演習 5	中国仏教史の諸問題	教 授	滋賀 高義
東洋史学演習 6	韓国・朝鮮と日本に関わる歴史、社会の史料演習	助 授	鄭 早苗

文学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
文学基礎学A	東西文学の世界 東西文学の世界 —ドイツ文学の立場から— 国文学研究の基本的な方法と日本文芸美の特質	教 授 内藤 史朗 教 授 友田 孝興 教 授 喜多川恒男
文学基礎学B	漢詩の世界 国文学研究の基本的な方法と日本文芸美の特質 漢詩の世界 東西文学の世界 東西文学の世界 —ドイツ文学の立場から—	専任講師 佐藤 義寛 教 授 喜多川恒男 専任講師 佐藤 義寛 教 授 内藤 史朗 教 授 友田 孝興
国文学概論	日本文学史	講 師 水田 紀久
国語学概論	日本語の諸相を知る	講 師 西端 幸雄
国文学講義 1	平安期の女流日記	助 授 荒井とみよ
国文学講義 2	明治の文学	講 師 平林 一
国文学講義 3	説話文学	講 師 新聞 水緒
国文学講義 4	平安朝漢文学の世界	講 師 後藤 昭雄
国文学講義 5	『新古今和歌集』の読解・鑑賞	講 師 三村 晃功
国文学講義 6	近代象徴詩の系譜	講 師 仲野 良一
国語学講義 1	『玉あられ』に関する理解を深める	講 師 足立 雅代
国語学講義 2	文章表現の基本について論ずると共に実作練習をおこなう	教 授 喜多川恒男
国語学講義 3	日本語のモダリティに関して考察する	講 師 足立 雅代
国文学基礎講読A	古典文学の研究	教 授 喜多川恒男
国文学基礎講読B	古典文学の研究	専任講師 赤瀬 知子
国文学基礎講読C	古典文学の研究	助 授 沙加戸 弘
国文学講読 1	古今和歌集	専任講師 赤瀬 知子
国文学講読 2	中古文芸講読	講 師 水田 紀久

国文学講読 3	『仮名手本忠臣蔵』(十段目前半)	助 教 授	沙加戸 弘
国文学講読 4	『水無瀬恋十五首歌合』の読解	講 師	三村 晃功
国文学講読 5	民友社文学	講 師	平林 一
国文学講読 6	日本近代文学の諸問題	講 師	青木 稔弥
国文学講読 7	近代日本文学作品の読解力を高めるための講読と教員 志願者の専門的能力の向上をはかる	教 授	喜多川恒男
国文学講読 8	與謝野鐵幹と與謝野晶子の人と文学	講 師	中 皓
国文学演習 1	今昔物語集の研究(巻15を中心に)	教 授	石橋 義秀
国文学演習 2	本年度休講		
国文学演習 3	『心中紙屋治兵衛』の研究	助 教 授	沙加戸 弘
国文学演習 4	室町時代物語の研究	教 授	片岡 了
国文学演習 5	永井荷風研究	教 授	喜多川恒男
国文学演習 6	「樋口一葉の日記」を読む	助 教 授	荒井とみよ
中国文学概論	中国文学概論	教 授	河内 昭円
中国語学概論	中国語の基本的な文章構造の理解	講 師	中島 利郎
中国文学講義 1	本年度休講		
中国文学講義 2	中国哲学史概説	教 授	若槻 俊秀
中国文学講義 3	中国の書物	講 師	吉井 和夫
中国文学講義 4	朱子学と陽明学	講 師	橋本 高勝
中国語学講義	中国古典文法の理解と修得	専任講師	佐藤 義寛
中国文学基礎講読	『文選』講読	専任講師	佐藤 義寛
中国文学講読 1	論語注疏講	教 授	若槻 俊秀
中国文学講読 2	唐詩における「月」と「鳥」	講 師	齋藤 茂
中国文学講読 3	現代文学史の理解を深め現代中国語の読解能力を高める	専任講師	渡部 洋
中国文学講読 4	『列仙全伝』講読	専任講師	佐藤 義寛
中国文学演習 1	中国文学研究の諸問題	教 授	若槻 俊秀
中国文学演習 2	中国文学における諸問題	教 授	河内 昭円
英文学概論	A. Hemingway の作品を読む	教 授	米本 義孝
英語学概論	英語学入門	助 教 授	村瀬 順子
英文学講義 1	イギリスの詩と小説の間 —Blake, Dickens, Hardy, D. H. Lawrence, & W. B. Yeats	教 授	内藤 史朗
英文学講義 2	シェイクスピアの劇作法とレトリック	教 授	内藤 史朗
英文学講義 3	近代英文学の背景(ヴィクトリア朝から現代まで)	教 授	多田 稔
英文学講義 4	Ernest Hemingway の The Sun Also Rises を読む	講 師	山内 邦臣
英文学講義 5	イギリス・ロマン派詩人研究(Ⅳ)・・・John Keats の「頌歌」群(the great Odes)を中心に・・・	講 師	松下 千吉
英文学講義 6	English and American Poetry of the 19th & 20th Cen- turies	教 授	N.A. Waddell
英語学講義	英語の変形文法	講 師	三宅 正隆
英文学基礎講読A	英米文学入門及び英語力の増強	教 授	鈴木 繁一
英文学基礎講読B	英米文学入門及び英語力の増強	助 教 授	村瀬 順子
英文学講読 1	D. H. Lawrence: Lady Chatterley's Lover を読む	教 授	内藤 史朗
英文学講読 2	J. Steinbeck: Of Mice and Men を読む	講 師	古川 弘之
英文学講読 3	ハーディの時の節目・時離れ ハーディとロレンスの 教養小説	講 師	前川 哲郎
英文学講読 4	20世紀の英詩	講 師	宮内 弘
英文学講読 5	イギリス現代劇入門	講 師	高谷 修
英文学演習 1	「文学鑑賞の仕方」と「文章の書き方」の習得法	教 授	米本 義孝
英文学演習 2	シェイクスピアと現代文学	教 授	内藤 史朗
英文学演習 3	卒業論文の指導	助 教 授	村瀬 順子
英文学演習 4	小説と劇の捉え方 —英詩の要素がどのように生かされるか—	教 授	内藤 史朗

英文学演習 5	三人の作家についての研究法	教 授	米本 義孝
ドイツ文学概論	ドイツ文学史	講 師	岸 繁一
ドイツ語学概論	ドイツ語文法の基本体系	講 師	西本 美彦
ドイツ文学講義 1	ゲーテ、シラー、リルケ、ヘッセの詩と思想	教 授	友田 孝興
ドイツ文学講義 2	ドイツ現代演劇再考	講 師	近藤 公一
ドイツ文学講義 3	R. M. リルケ —詩的世界の諸相—	講 師	小島 衛
ドイツ文学講義 4	ドイツ語文化圏の Landeskunde	教 授	大河内了義
ドイツ文学基礎講読	ドイツ文学入門	助 授	禿 憲仁
ドイツ文学講読 1	Landeskundliche und Lesetü bungen	教 授	大河内了義
ドイツ文学講読 2	Goethe: Die Leiden des jungen Werther	講 師	芦津 丈夫
ドイツ語学講読	Berlin im Brennpunkt deutscher Geschichte (1945-1990)	助 授	A. Decke= Cornill
ドイツ文学演習	ドイツの文学とその世界	教 授	友田 孝興

国際文化学科

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
国際文化研究法 A	西洋文明と東洋	教 授	多田 稔
国際文化研究法 B	西洋文明と東洋	教 授	多田 稔
日本文化概論	日本文化と外来思想	教 授	名畑 崇
比較文化論	96年度開講予定		
東洋文化概論	漢字文化圏の成立と発展	教 授	竺沙 雅章
西洋文化概論	ヘレニズムとヘブライズム	教 授	新村祐一郎
東洋文化史	中国征服王朝期における社会と文化の変容	教 授	藤島 建樹
西洋文化史	17世紀の歴史と文化	教 授	新村祐一郎
日本文化史	日本古代の歴史と文化	教 授	名畑 崇
中国文化講義	中国中世の政治と文化	助 授	大内 文雄
韓国・朝鮮文化講義	韓国・朝鮮史を通して東アジアと日本の歴史を考える	助 授	鄭 早苗
東南アジア文化講義	東南アジアの社会学：タイを中心に	助 授	高井 康弘
インド文化講義	原始仏教の源流	教 授	長崎 法潤
チベット文化講義	チベットの文化と社会について	助 授	白館 戒雲
英・米文化講義	English and American Poetry of the 19th & 20th Centuries	教 授	N.A. Waddell
ドイツ文化講義	ドイツ語文化圏の Landeskunde	教 授	大河内了義
フランス文化講義	フランスの思想と芸術の歴史	講 師	丹治恒次郎
比較宗教学	比較宗教学とは何か、その歴史と課題	教 授	武田 武磨
仏教文化講義	96年度開講予定		
国際文化基礎講読 A	中国の歴史と文化	専任講師	桂華 淳祥
国際文化基礎講読 B	漢字文化圏の文化を学ぶ為の基礎講読	教 授	若槻 俊秀
		専任講師	渡部 洋
国際文化基礎講読 C	国際化と韓国・朝鮮について考える	助 授	鄭 早苗
国際文化基礎講読 D	Introduction to American Culture	専任講師	R.F. Rhodes
	インド文化への招待	教 授	長崎 法潤
	日系移民文化論	専任講師	樋口 章信
国際文化基礎講読 E	ビートルズを読む	教 授	米本 義孝
国際文化基礎講読 F	ドイツ語文化圏の諸相研究入門	教 授	友田 孝興
国際文化基礎講読 G	La France par-ci par-la	教 授	加来 一九
時事英語 I-1	English for reading newspapers and magazines	専任講師	R.F. Rhodes
時事英語 I-2	英語の新聞を読む	講 師	高須 忞子
時事英語 I-3	英語の新聞を読む	講 師	高須 忞子
時事英語 I-4	英語の新聞を読む	講 師	高須 忞子
時事英語 II-1	TIME を読む	助 授	村瀬 順子
時事英語 II-2	TIME を読む	助 授	村瀬 順子

時事英語Ⅱ-3	英語を通して時事問題にふれること	講 師	三宅 正隆
時事英語Ⅱ-4	英語を通して時事問題にふれること	講 師	三宅 正隆
中国文化講読	中国史関係現代文献選読	専任講師	桂華 淳祥
韓国・朝鮮文化講読	韓国・朝鮮の文化を歴史と現代を通して理解する	助 教授	鄭 早苗
チベット文化講読	『サキヤ・レクシュ』の講読	助 教授	白館 戒雲
サンスクリット文化講読	サンスクリット文献の講読	助 教授	宮下 晴輝
ヒンディー文化講読	インド共和国の祝日から個々の背景を探ってみたい	講 師	肥塚美和子
ドイツ文化講読	Goethe: Die Leiden des jungen Werther	講 師	芦津 丈夫
フランス文化講読	Balzac: Eugénie Grandet	教 授	加来 一丸
仏教文化講読	96年度開講予定		
地域文化演習 1	中国文化の過去と現在	教 授	竺沙 雅章
地域文化演習 2	インド文化研究の方法 東南アジアにおける仏教文化の世界 チベットの文化と仏教について	専任講師	桂華 淳祥
地域文化演習 3	韓国・朝鮮の資料を読み隣国を知る	教 授	長崎 法潤
地域文化演習 4	現代英国社会と文化の理解のために	教 授	吉元 信行
地域文化演習 5	THE AMERICAN CIVIL WAR	助 教授	白館 戒雲
地域文化演習 6	THE AMERICAN CIVIL WAR	助 教授	鄭 早苗
地域文化演習 7	Seminar on American Culture	教 授	多田 稔
地域文化演習 8	G. A. Craig の「ドイツ人論」	教 授	N.A. Waddell
英会話・作文 (初級) 1	Elementary English Conversation and Composition	教 授	N.A. Waddell
英会話・作文 (初級) 2	Elementary English Conversation and Composition	専任講師	R.F. Rhodes
英会話・作文 (初級) 3	Elementary English Conversation and Composition	教 授	大河内了義
英会話・作文 (初級) 4	Elementary English Conversation and Composition	教 授	加来 一丸
英会話・作文 (初級) 5	Elementary English Conversation and Composition	教 授	N.A. Waddell
英会話・作文 (初級) 6	Elementary English Conversation and Composition	講 師	P.L. Houser
英会話・作文 (中級) 1	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	P.L. Houser
英会話・作文 (中級) 2	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	Y. Macdougall
英会話・作文 (中級) 3	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	Y. Macdougall
英会話・作文 (中級) 4	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	Y. Macdougall
中国語会話 (初級) 1	中国語会話の基礎	講 師	別宮美穂子
中国語会話 (初級) 2	中国語実用会話	講 師	別宮美穂子
ドイツ語会話 (初級)	コミュニケーションのための初級ドイツ語会話	講 師	I.K. Cuthbert
フランス語会話 (初級)	便利なフランス語会話	講 師	I.K. Cuthbert
英会話・作文 (上級) 1	English Conversation and Composition (Advanced)	専任講師	桂華 淳祥
英会話・作文 (上級) 2	English Conversation and Composition (Advanced)	専任講師	李 青
英会話・作文 (上級) 3	English Conversation and Composition (Advanced)	助 教授	A. Decke = Cornill
英会話・作文 (上級) 4	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	J. Lamare
英会話・作文 (上級) 5	English Conversation and Composition (Advanced)	講 師	M. Bethe
中国語会話 (中級) 1	中国語から中国社会を見つめる	講 師	M. Bethe
中国語会話 (中級) 2	日常会話における聴力と会話力の養成	専任講師	R.F. Rhodes
ドイツ語会話 (中級)	コミュニケーションのための中級ドイツ語会話	講 師	R.L. Seltman
フランス語会話 (中級)	日常的なフランス語会話	講 師	R.L. Seltman
中国文学	中国哲学史概説	専任講師	李 青
英文学	近代英文学の背景 (ヴィクトリア朝から現代まで)	講 師	中島 利郎
ドイツ文学	ゲーテ、シラー、リルケ、ヘッセの詩と思想	助 教授	A. Decke = Cornill
フランス文学	フランス文学の中の自然感情	講 師	J. Lamare
日本語学	日本語とはどのような言語か	教 授	若槻 俊秀
日本語教授法	日本語教授法各論	教 授	多田 稔
		教 授	友田 孝興
		教 授	加来 一丸
		講 師	服部 匡
		講 師	下田美津子



c. 自由科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
第Ⅰ群		
哲学とは何か	哲学、哲学すること、哲学者	講 師 小浜 善信
倫理とは何か	「なぜ道徳的であるべきか」という問いをめぐって	講 師 安彦 一恵
宗教とは何か	宗教的作用と意味	講 師 細谷 昌志
論理学入門	論理的に考えるために	教 授 池上 哲司
日本国憲法と市民社会	日本国憲法の基本原理と家族法	講 師 成瀬 高明
日本国憲法と法の歴史	現代における国制・法の諸問題を法史学の視点と知識に基づいて考察する	講 師 飯野 靖夫
現代の法と憲法	憲法と社会 一人権と社会生活―	講 師 吉川 直人
現代経済の理解	現代経済に関する基礎的知識と理解のために	講 師 岡田 賢一
民族と人権	親鸞と現代	専任講師 泉 恵機
社会と人権	出来事からの考察	講 師 吉田 賢作
ヨーロッパの社会と文化	ヨーロッパとは何か	講 師 宮澤 正典
海洋の発見と探検	発見航海と海の自然科学の発展	教 授 島田 正彦
言語と文字	言語及び文字と文化の関係	専任講師 榎原 孝
鑑賞日本の古典	日本文学に現われた「もののけ」「霊鬼」「妖怪」	講 師 蔵田 敏明
中国の詩文	中国の詩文の流れ	講 師 吉井 和夫
日本の美・東洋の美	美の思想と伝統	講 師 脇坂 淳
世界の音楽	音楽と宗教	講 師 高橋 曜子
数の話	数と数の間の関係	講 師 野村 常雄
星の世界	宇宙観の移り変わり	講 師 野村 常雄
分子でわかる生物学	分子レベルの生命活動	教 授 加藤 尚子
生命体と進化	生物の共通性と多様性	教 授 日下部有信
哲学	哲学の諸問題	専任講師 渡辺 啓真
社会学	社会学の諸領域	講 師 千葉 芳夫
教育学	教育するとはどういうことかを考える	講 師 岡田 敬司
法学	法の歴史と市民社会	講 師 成瀬 高明
日本史学	民族文化としての江戸文化	教 授 大桑 斉
東洋史学	中国の史書 ―その撰述と伝承―	教 授 竺沙 雅章
西洋史学	西洋古代史概論	教 授 新村祐一郎
日本文学	近代日本文学と十五年戦争	助 授 荒井とみよ
西洋文学	西洋の文学とその時代	助 授 村瀬 順子
自然科学概論	本年度休講	
物理学	本年度休講	
地球の環境	地球環境の変遷	教 授 西田 潤一
地球科学	プレートテクトニクス	教 授 西田 潤一
環境科学	生物にとって環境とは	教 授 日下部有信
惑星科学	太陽系の惑星としての地球	教 授 西田 潤一
第Ⅱ群		
心理学概論 1	認知行および社会行動	講 師 木下 稔子
心理学概論 2	「こころ」を科学する	講 師 竹西 亜古
心理学 1	人間存在への心理学的接近	講 師 讓 西賢
心理学 2	生活の中の心理学	講 師 宮嶋 邦明
法学概論	法と社会生活	講 師 吉川 直人
政治学概論	転換期の政治と社会	講 師 萬田 悦生
国際政治学	国際政治、国際関係の体系的な理解	講 師 田中 義皓
国際関係論	世界政治の構造変動と日本の役割	講 師 桐山 孝信
経済学概論	現代経済学の有効性	講 師 寺田 宏洲
国際経済学	日本経済を取り囲む国際経済環境	講 師 岡地 勝二
西洋史学概論	宗教史からみたヨーロッパの心	講 師 L. Bellini

古文書学 I	中世文書の様式と機能	講師	橋本 初子
古文書学 II	京都の町文書	講師	五島 邦治
考古学	考古学の方法と先史時代および古代史	講師	小野山 節
美術史	敦煌と日本の仏教絵画	講師	河原 由雄
日本民俗学	日本人の一生	講師	吉田 清
文化人類学	文化人類学者がみた世界	助教授	高井 康弘
人文地理学 1	人文地理学概説	講師	松本 博之
人文地理学 2	境界の地理学	教授	島田 正彦
自然地理学	地形と気候	教授	西田 潤一
世界地誌学 1	オセアニア地誌	講師	松本 博之
世界地誌学 2	カナダ地誌	教授	島田 正彦
東西文化比較論	東西文化交流—チベット文化圏をめぐる—	講師	今枝 由郎
書道	中国書道史	講師	萩 信雄
フランス文学史	十七世紀のフランス文学	講師	西井 元昭
同和教育 1	部落差別の問題と浄土真宗	専任講師	泉 恵機
同和教育 2	部落解放運動の精神に学ぶ	専任講師	泉 恵機
同和教育 3	人間解放への教育	講師	山田 光二
同和教育 4	部落問題の現況と課題	専任講師	泉 恵機
同和教育 4	部落問題の現況と課題	講師	吉田 賢作
図書学	図書学 —書物の歴史と情報検索の方法—	専任講師	村松 法文
第Ⅲ群			
英語 (Advanced) 1	イギリスの現代演劇を読む	講師	丸橋 良雄
英語 (Advanced) 2	アメリカ現代小説を読む	講師	恵谷 弥生
英語 (Advanced) 3	Speaking about ourselves with student produced photographs	講師	D.M. Cosgrove
英語 (Advanced) 4	映画のシナリオを読む	講師	高谷 修
英語 (Advanced) 5	ポップスソングを題材にして聴解力をつける	講師	渡辺 範征
英語 (Advanced) 6	ルイス・キャロルを知る	講師	野上 憲男
英会話・英作文 I-1	Elementary English Conversation and Composition	講師	D. Burgess
英会話・英作文 I-2	Elementary English Conversation and Composition	講師	P.N. Vigers
英会話・英作文 I-3	Elementary English Conversation and Composition	講師	P.N. Vigers
英会話・英作文 I-4	Elementary English Conversation and Composition	講師	R. Kritzer
英会話・英作文 I-5	Elementary English Conversation and Composition	講師	R. Kritzer
英会話・英作文 I-6	Elementary English Conversation and Composition	講師	I.K. Cuthbert
英会話・英作文 I-7	Elementary English Conversation and Composition	講師	R.L. Seltman
英会話・英作文 I-8	Elementary English Conversation and Composition	講師	D. Burgess
英会話・英作文 I-9	Elementary English Conversation and Composition	講師	D.M. Cosgrove
英会話・英作文 II-1	Intermediate English Conversation and Composition	講師	R. Kritzer
英会話・英作文 II-2	Intermediate English Conversation and Composition	講師	R. Kritzer
英会話・英作文 II-3	Intermediate English Conversation and Composition	講師	D.M. Cosgrove
英会話・英作文 II-4	Intermediate English Conversation and Composition	講師	D.M. Cosgrove
英会話・英作文 III-1	English Conversation and Composition (Advanced)	講師	T.D. Ochs
英会話・英作文 III-2	English Conversation and Composition (Advanced)	講師	T.D. Ochs
ドイツ語 I-1	コミュニケーションのための生きた初級ドイツ語	助教授	A. Decke = Cornill
ドイツ語 I-2	コミュニケーションを中心とする基礎語学力の強化	講師	伊狩 裕
ドイツ語 I-3	ドイツ語初級文法	講師	藤島 学陵
ドイツ語 II-1	コミュニケーションのための生きた中級ドイツ語	助教授	A. Decke = Cornill
ドイツ語 II-2	ドイツ語の話し言葉 (中級)	講師	橋本 兼一
ドイツ語 II-3	読解力の養成	講師	山本 雅昭
ドイツ語 III	高度なテキスト使用しての正確な速読	講師	吉村 博次
フランス語 I-1	基本的なフランス語会話	講師	J. Lamare

フランス語Ⅰ-2	初級、コミュニケーションのためのフランス語	講 師	D. Wester
フランス語Ⅰ-3	フランス語基礎文法	講 師	元木 淳子
フランス語Ⅱ-1	初～中級フランス語会話	講 師	D. Wester
フランス語Ⅱ-2	フランス語初級文法の再認識と使えるフランス語の体得	講 師	杉山 朱実
フランス語Ⅱ-3	フランス語の基礎の完成と発展	専任講師	番場 寛
フランス語Ⅲ	フランス語短篇小説の講読、その醍醐味	教 授	加来 一丸
中国語Ⅰ-1	初級中国語入門	講 師	阿辻 哲次
中国語Ⅰ-2	初級中国語の修得	講 師	矢放 昭文
中国語Ⅱ-1	現在の北京のさまざまな情景を通じて日常的な中国語に親しむ	講 師	中島 利郎
中国語Ⅱ-2	会話力・表現力の養成	講 師	文 楚雄
中国語Ⅲ	楽しく話す中国語	専任講師	李 青
韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語を読み話せる	助 授	鄭 早苗
サンスクリット語1	初級サンスクリット語文法	助 授	宮下 晴輝
サンスクリット語2	サンスクリット語入門	助 授	兵藤 一夫
サンスクリット語3	サンスクリット語入門	教 授	片野 道雄
ペーリ語	ペーリ語入門	教 授	吉元 信行
チベット語1	チベット語文法の修得	助 授	小谷信千代
チベット語2	現代チベット語入門	助 授	白館 戒雲
ヒンディー語	インド共和国の祝日から人に生活を見る	講 師	肥塚美和子
ギリシャ語	古典ギリシャ語初歩	教 授	箕浦 恵了
ラテン語	古典ラテン語の手ほどき	講 師	水野 有庸
ポルトガル語	コミュニケーションの道具としてのポルトガル語 (初級)	講 師	田所 清克
日本語Ⅰ	聴解、会話(初級)	講 師	藤井 涼子
日本語Ⅱ	聴解、会話(中級)	講 師	藤井 涼子
日本語教育学	日本語教育の基礎知識	講 師	下田美津子
英語学	英語の構造と機能の研究	講 師	三宅 正隆
言語学	人間に共通な深層構造での「ことば (langage)」=「知の在り方」へのアプローチ	講 師	杉山 朱実
対照言語学	言語の普遍的特徴の追求 — 「知の在り方」へのアプローチ—	講 師	杉山 朱実
第Ⅳ群			
情報科学1	自己組織系のしくみ	講 師	久保 道
情報科学2	自己組織系のしくみ	講 師	久保 道
情報処理実習Ⅰ-1	パソコンによる情報処理の方法 基礎編(ワープロ・表計算)	教 授	西田 潤一
情報処理実習Ⅰ-2	パソコンによる情報処理の方法 基礎～初級編(ワープロと表計算・グラフ作成)	講 師	藤田 雅子
情報処理実習Ⅰ-3	パソコンによる情報処理の方法 基礎～初級編(ワープロと表計算・グラフ作成)	講 師	藤田 雅子
情報処理実習Ⅰ-4	パソコンによる情報処理の方法 基礎～初級編(ワープロと表計算・グラフ作成)	講 師	藤田 雅子
情報処理実習Ⅱ-1	パソコンによる様々な情報処理とデータベース 応用編(多言語処理とデータベース)	教 授	吉元 信行
情報処理実習Ⅱ-2	パソコンによる情報処理の方法 中級編(ワープロとWindows操作)	講 師	藤田 雅子
第Ⅴ群			
発育発達と高齢化社会	現代生活と運動不足	教 授	瀬戸 進
スポーツの心理	スポーツの場における心理的現象	教 授	中桐 伸吾
スポーツ研究Ⅰ	スポーツの生活化	教 授	瀬戸 進
		教 授	中桐 伸吾

スポーツ研究2	スポーツの生活化	専任講師 中森 一郎 講師 竹内 京一 講師 大木 久知 講師 田中 真実 講師 八木 保進 教授 瀬戸 進 教授 中桐 伸吾 専任講師 中森 一郎 講師 竹内 京一 講師 田中 真実 講師 宮村 茂紀 講師 清水 啓司 講師 大木 久和 教授 瀬戸 進 教授 中桐 伸吾
スポーツ研究3	スポーツの生活化	専任講師 中森 一郎 講師 竹内 京一 講師 田中 真実 講師 宮村 茂紀 講師 清水 啓司 講師 大木 久和 教授 瀬戸 進 教授 中桐 伸吾
スポーツ研究4	スポーツの生活化	専任講師 中森 一郎 講師 竹内 京一 講師 田中 真実 講師 宮村 茂紀 講師 清水 啓司 講師 大木 久和 専任講師 中森 一郎 講師 竹内 京一 講師 田中 真実 講師 宮村 茂紀 講師 清水 啓司 講師 大木 久和 講師 辻 浅夫 講師 秦 優子 教授 瀬戸 進 教授 山田 知子 教授 中桐 伸吾
スポーツ研究演習	スポーツとからだを考える	専任講師 中森 一郎
第Ⅵ群 実践中国語 中国文化事情 インドの宗教と文化	中国（現地）で生の中国語を学ぶ 現代の中国文化事情を知る インドの宗教と文化	専任講師 李 青 専任講師 李 青 教授 小川 一乗

#### d. 諸課程科目

大谷派教師課程

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
声明作法	声明の実践	講師 仁科 和志
教化学	真実に生きよ ―生きることを学ぶ―	講師 児玉 保
仏教音楽	仏教讃歌の歌唱と声明史	教授 岩田 宗一
宗教法規	宗教法規の変遷と法作用について	講師 不和 仁
同和教育 1	部落差別の問題と浄土真宗	専任講師 泉 恵機
同和教育 2	部落解放運動の精神に学ぶ	専任講師 泉 恵機
矯正と保護	犯罪者・非行少年に対する更生援助機構の実状	教授 酒井 汀

図書館学課程

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
図書館通論	図書館とは何か。望まれる図書館員像。	講 師 廣庭 基介
図書館活動	図書館活動	専任講師 村松 法文
図書館資料論	図書館資料論	専任講師 村松 法文
参考業務	参考業務の理論	講 師 武内 隆恭
参考業務演習	参考図書探索と参考質問の回答	講 師 武内 隆恭
資料目録法	和漢書目録法	講 師 横田 應
資料目録法演習	和漢書目録法(演習)	講 師 横田 應
資料分類法	知識と図書の分類	講 師 尾崎 正治
資料分類法演習	書架目録と書誌学	講 師 尾崎 正治
資料整理法特論	資料整理法特論	専任講師 村松 法文
図書及び図書館史	図書及び図書館史	専任講師 村松 法文
人文科学及び社会科学の書誌解題	人文科学及び社会科学の書誌解題	専任講師 村松 法文
書誌解題		
視聴覚教育	視聴覚教育	専任講師 村松 法文

博物館学課程

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
博物館学	博物館学芸員はいかにあるべきか	講 師 灰野 昭郎
教育原論 1	教育の本質と学校教育の課題	教 授 守谷 正己
教育原論 2	「教育とは何か」を考えるために	専任講師 関口 敏美
社会教育の基礎	社会教育の理念と課題	講 師 福西 信幸
視聴覚教育	博物館・美術館における視聴覚教育の意義と機材の利 用法について考える	講 師 赤尾 栄慶
博物館実習 I	資料取扱法	教 授 豊島 修 専任講師 宮崎 健司 助 授 一色 順心 助 授 大内 文雄 助 授 木場 明志 助 授 草野 顕之 助 授 沙加戸 弘 助 授 安藤 文雄
博物館実習 II	学外実習	教 授 豊島 修
古文書講読	日本中世・近世の古文書解読	助 授 木場 明志 助 授 草野 顕之
日本文化史 1	本年度休講	
日本文化史 2	日本中世の国家と仏教	講 師 平 雅行
日本文化史 3	説話文学	講 師 新聞 水緒
日本文化史 4	日本古代の歴史と文化	教 授 名畑 崇
中国文化史 1	中国中世の政治と文化	助 授 大内 文雄
中国文化史 2	宋代の士大夫と仏教	教 授 安藤 智信
中国文化史 3	中国の書物	講 師 吉井 和夫
仏教文化史	王朝貴族の生活と文化	教 授 佐々木 令信
文化交流史	韓国・朝鮮史を通して東アジアと日本の歴史を考える	助 授 鄭 早苗
文化人類学	社会形態、親族組織、家族形態や結婚、権力、経済活 動などの比較文化的探求	助 授 滝口 直子
文化人類学	文化人類学者がみた世界	助 授 高井 康弘

社会教育課程

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
社会教育の基礎	社会教育の理念と課題	講 師 福西 信幸

社会教育計画	社会教育の効果的な進め方～計画、方法～	教 授	守谷 正己
社会教育演習	社会教育の諸問題	教 授	守谷 正己
社会教育実習	本年度休講		
社会教育課題研究	社会教育に対する理解と認識	教 授	守谷 正己
社会教育特講Ⅰ-1	家庭教育と社会教育	教 授	酒井 汀
社会教育特講Ⅰ-2	家庭教育と社会教育	教 授	酒井 汀
社会教育特講Ⅰ-3	家庭教育と社会教育	教 授	酒井 汀
社会教育特講Ⅰ-4	相談心理学	講 師	尾崎 孝三
社会教育特講Ⅰ-5	犯罪者・非行少年に対する更生援助機構の実状	教 授	酒井 汀
社会教育特講Ⅰ-6	「学習社会」と社会教育	講 師	宗 孝文
社会教育特講Ⅱ-1	社会教育活動と施設	講 師	福西 信幸
社会教育特講Ⅱ-2	図書館とは何か。望まれる図書館員像	講 師	廣庭 基介
社会教育特講Ⅱ-3	博物館学芸員はいかにあるべきか	講 師	灰野 昭郎
社会教育特講Ⅱ-4	博物館・美術館における視聴覚教育の意義と機材の利 用法について考える	講 師	赤尾 栄慶
社会教育特講Ⅲ-1	教育の本質と学校教育の課題	教 授	守谷 正己
社会教育特講Ⅲ-2	「教育とは何か」を考えるために	専任講師	関口 敏美
社会教育特講Ⅲ-3	制度的教育をめぐる諸問題	教 授	野村 哲也
社会教育特講Ⅲ-4	教育と社会の関係を学ぶ	助 教 授	滝口 直子
社会教育特講Ⅲ-5	遊戯・スポーツ及びレクリエーション活動論	教 授	瀬戸 進
社会教育特講Ⅲ-6	部落差別の問題と浄土真宗	専任講師	泉 恵機
社会教育特講Ⅲ-7	部落解放運動の精神に学ぶ	専任講師	泉 恵機
社会教育特講Ⅲ-8	人間解放への教育	講 師	山田 光二
社会教育特講Ⅲ-9	部落問題の現状と課題	専任講師	泉 恵機
		講 師	吉田 賢作

教職課程

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
教育原論 1	教育の本質と学校教育の課題	教 授 守谷 正己
教育原論 2	「教育とは何か」を考えるために	専任講師 関口 敏美
教育心理学 1	教育心理学概論	専任講師 杉原 保史
教育心理学 2	教育心理学概論	専任講師 杉原 保史
青年心理学 1	青年の自己理解と精神保健	教 授 酒井 汀
青年心理学 2	青年の自己理解と精神保健	教 授 酒井 汀
教育社会学 1	制度的教育をめぐる諸問題	教 授 野村 哲也
教育社会学 2	教育と社会の関係を学ぶ	助 教 授 滝口 直子
教育行財政学 1	教育行財政の基本的事項を正確に理解し、教育行政的 思考方法を身につける	講 師 田中耕二郎
教育行財政学 2	教育行財政の基本的事項を正確に理解し、教育行政的 思考方法を身につける	講 師 田中耕二郎
教育方法論 1	現代の教育課題に対応した教育方法の考察	教 授 守谷 正己
教育方法論 2	現代の教育課題に対応した教育方法の考察	教 授 守谷 正己
教科教育法(中学社会科)	「楽しく」「わかる」中学社会科を創るために	専任講師 関口 敏美
教科教育法 (高校地理歴史科)	中学・高校生に如何に地理・歴史を教えるか。教師と しての適性はありやなしや・教師の心構え	講 師 三牧 正稔
教科教育法(高校公民科)	私たちの社会・生活と高校社会科(公民科)	専任講師 関口 敏美
教科教育法(宗教科)	宗教教育の実際	助 教 授 門脇 健
教科教育法(国語科)	高等学校における国語科教育法	講 師 菊井 淑子
教科教育法(英語科)	英語教師の英語力と授業	教 授 鈴木 繁一
道德教育の研究	授業「道德」の目的と方法	教 授 大竹 鑑
教育指導論 A	特別活動の意義と重要性	教 授 守谷 正己
教育指導論 B	生徒指導とカウンセリング	教 授 酒井 汀

教育実習	教育実習の意義と実習のあり方	専任講師	泉 恵機
同和教育 1	部落差別の問題と浄土真宗	講師	山田 光二
同和教育 2	部落解放運動の精神に学ぶ	専任講師	泉 恵機
同和教育 3	人間解放への教育	講師	吉田 賢作
同和教育 4	部落問題の現況と課題	専任講師	泉 恵機
西洋教育史	西洋の人間形成史	講師	川村 覚昭

1995（平成7）年度 大学院開講科目一覧

修士課程

真宗学専攻

基礎科目（1995年度修士課程入学生適用）

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
真宗学基礎研究(講義)	真宗用語の基礎研究	助 授	延塚 知道
真宗学基礎研究(文献研究)	『選択本願念仏集』	助 授	安藤 文雄
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	人間の「偉大さ」についての考察	教 授	大河内了義
西洋文化研究(文献研究)	シモーヌ・ヴェイユの後期宗教思想の研究	講 師	田辺 保

主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
真宗学特殊研究Ⅰ(講義)	教行信証の諸問題(統講) 願生論	教 授	寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅰ(講義)	『教行信証』の思想研究(統) 大信論	教 授	小野 蓮明
真宗学特殊研究Ⅱ(文献研究)	『浄土三経往生文類』の研究	教 授	寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅲ(演習)	『教行信証』行巻の研究	教 授	寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅲ(演習)	『教行信証』行巻の研究	教 授	小野 蓮明

仏教学専攻

基礎科目（1995年度修士課程入学生適用）

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
仏教学基礎研究(講義)	中国仏教思想の展開	教 授	木村 宣彰
仏教学基礎研究(講義)	仏教の基本概念の再確認	助 授	小谷信千代
仏教学基礎研究(文献研究)	サンスクリット基礎講読	助 授	兵藤 一夫
仏教学基礎研究(文献研究)	仏教漢文文献読解	助 授	一色 順心
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授	多田 稔

西洋文化研究(文献研究)	人間の「偉大さ」についての考察	教 授	大河内了義
西洋文化研究(文献研究)	シモーヌ・ヴェイユの後期宗教思想の研究	講 師	田辺 保

主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
仏教学特殊研究Ⅰ(講義)	スッタニパータの思想研究	教 授 長崎 法潤
仏教学特殊研究Ⅰ(講義)	賢首法蔵の教学研究	教 授 鍵主 良敬
仏教学特殊研究Ⅱ(文献研究)	チベット語仏教文献の解読研究	教 授 小川 一乗
仏教学特殊研究Ⅱ(文献研究)	趙宋天台の研究	教 授 福島 光哉
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	仏教文献の解読研究	教 授 小川 一乗
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	仏教論理学とジャイナ教論理学との比較研究	教 授 長崎 法潤
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	摩訶止観	教 授 福島 光哉
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	『成唯識論』	教 授 鍵主 良敬

哲学専攻

基礎科目 (1995年度修士課程入学生適用)

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
哲学基礎研究(講義)	哲学の基本問題とその変遷	教 授 箕浦 恵了
哲学基礎研究(講義)	社会学研究のための基礎概念と方法	教 授 野村 哲也
哲学基礎研究(講義)	文化系学問の研究手法	教 授 大竹 鑑
哲学基礎研究(文献研究)	哲学の文献を読むために	教 授 池上 哲司
哲学基礎研究(文献研究)	アメリカ個人主義のゆくえ	教 授 松村 尚子
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	人間の「偉大さ」についての考察	教 授 大河内了義
西洋文化研究(文献研究)	シモーヌ・ヴェイユの後期宗教思想の研究	講 師 田辺 保

主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	哲学の根本問題	教 授 訓覇 嘩雄
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	社会関係論(家族関係を中心とする)	教 授 野村 哲也
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	笑いと教育	教 授 大竹 鑑
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	フッサールの現象学	教 授 訓覇 嘩雄
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	哲学的思惟の論理	教 授 武田 武磨
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	ジョン・デューイの教育哲学	教 授 大竹 鑑
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	Studies in ETHNOMETHODOLOGY	教 授 野村 哲也
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	本年度休講	
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教 授 訓覇 嘩雄
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教 授 箕浦 恵了
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教 授 武田 武磨
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	「人間」研究のアプローチと方法	教 授 野村 哲也
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	「人間」研究のアプローチと方法	教 授 大竹 鑑



仏教文化専攻

基礎科目 (1995年度修士課程入学生適用)

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
仏教文化基礎研究(講義)	日本における文化と仏教と歴史	教 授 大桑 斉
仏教文化基礎研究(講義)	東アジア史上における仏教文化の展開	教 授 藤島 建樹
仏教文化基礎研究(文献研究)	『鎌倉遺文』を読む	助 教 授 草野 颯之
仏教文化基礎研究(文献研究)	『華和讃親羅源氏』の研究	助 教 授 沙加戸 弘
仏教文化基礎研究(文献研究)	中国古典解釈文法	教 授 河内 昭円
仏教文化基礎研究(文献研究)	文献読解力の養成 一石刻碑文の解読	助 教 授 大内 文雄
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 N.A. Waddell
西洋文化研究(文献研究)	Introduction to the Western Culture (the English Bible and AMERICAN POETRY)	教 授 多田 稔
西洋文化研究(文献研究)	人間の「偉大さ」についての考察	教 授 大河内了義
西洋文化研究(文献研究)	シモース・ヴェイユの後期宗教思想の研究	講 師 田辺 保

主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	日本の仏教と文化 一経典・縁起・伝承一	教 授 片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	日本の仏教と文化 一経典・縁起・伝承一	教 授 名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	唐代釈教碑と賛寧	教 授 河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	明時代の仏教	教 授 滋賀 高義
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	沙石集の研究	教 授 片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	『元亨釋書』の研究	教 授 名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	唐代詩僧の研究	教 授 河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	宋代仏教史料の研究	教 授 竺沙 雅章
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究 一縁起・説話・物語を中心に一	教 授 大桑 斉
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究 一縁起・説話・物語を中心に一	教 授 片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究 一縁起・説話・物語を中心に一	教 授 名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『続高僧伝』の研究	教 授 河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『続高僧伝』の研究	教 授 滋賀 高義
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『続高僧伝』の研究	教 授 竺沙 雅章
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『続高僧伝』の研究	教 授 藤島 建樹

関連科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
真宗学研究	本年度休講	
真宗学研究	近代親鸞教学の研究	講 師 本多 弘之
真宗学研究	大無量寿経の研究	講 師 藤田 宏達
真宗学研究	法然浄土教の研究	教 授 臼井 元成
真宗学研究(文献研究)	浄土論註	教 授 神戸 和麿
仏教学研究	日本天台の論義	講 師 白土 わか
仏教学研究	菩薩の諸相	講 師 杉本 卓洲
仏教学研究(文献研究)	大乘大義章	教 授 古田 和弘
仏教学研究(文献研究)	パーリ仏教教義集成 Sārasaṅgaha の研究	教 授 吉元 信行

インド学研究	インド思想史入門	講 師	前田 専学
哲学研究	現代フランス哲学の諸問題	講 師	水野 和久
倫理学研究	倫理学の諸問題	講 師	寺崎 峻輔
倫理学研究(文献研究)	Karl R. Popper; The Poverty of Historicism	講 師	寺崎 峻輔
宗教学研究	宗教哲学の諸問題 —宗教と言葉と倫理の問題—	講 師	長谷 正當
宗教学研究	現代における宗教の諸問題	講 師	大屋 憲一
社会学研究	宗教儀礼の諸問題	講 師	岩田 慶治
教育学研究	明治教育史考	講 師	大井 令雄
仏教文化研究	旧中国の政治と社会	講 師	梅原 郁
仏教文化研究	日宋文化交流の諸問題	講 師	藤善 眞澄
仏教文化研究	本年度休講		
仏教文化研究	近代仏教思想史論	講 師	柏原 祐泉
仏教文化研究	律令公民制の研究	講 師	鎌田 元一
仏教文化研究	三宝感応要略録研究	講 師	後藤 昭雄
仏教文化研究	日本中世の国家と仏教	講 師	平 雅行
仏教文化研究	中世真宗史の諸問題	講 師	千葉 乗隆
仏教文化研究	芭蕉七部集の研究	講 師	山本 唯一
地域文化研究	ヨーロッパ文化の地理的背景	教 授	島田 正彦
真宗学研究(文献研究)	善導の『観經玄義分』研究	講 師	広瀬 杲
真宗学研究(文献研究)	『無量寿經優姿提舎願生偈註』	教 授	神戸 和磨

### 博士後期課程

#### 真宗学専攻

##### 主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
真宗学特殊研究Ⅰ(講義)	教行信証の諸問題(続講) 願生論	教 授 寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅰ(講義)	『教行信証』の思想研究(続) 大信論	教 授 小野 蓮明
真宗学特殊研究Ⅱ(文献研究)	『浄土三経往生文類』の研究	教 授 寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅲ(演習)	『教行信証』化身土巻の研究	教 授 寺川 俊昭
真宗学特殊研究Ⅲ(演習)	『教行信証』信巻の研究	教 授 小野 蓮明

#### 仏教学専攻

##### 主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
仏教学特殊研究Ⅰ(講義)	スッタニパータの思想研究	教 授 長崎 法潤
仏教学特殊研究Ⅰ(講義)	賢首法蔵の教学研究	教 授 鍵主 良敬
仏教学特殊研究Ⅱ(文献研究)	チベット語仏教文献の解読研究	教 授 小川 一乗
仏教学特殊研究Ⅱ(文献研究)	趙宋天台の研究	教 授 福島 光哉
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	仏教文献の解読研究	教 授 小川 一乗
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	直接知覚の展開	教 授 長崎 法潤
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	法華思想の研究	教 授 福島 光哉
仏教学特殊研究Ⅲ(演習)	『成唯識論』	教 授 鍵主 良敬

#### 哲学専攻

##### 主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	哲学の根本問題	教 授 訓覇 曄雄
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	社会関係論(家族関係を中心とする)	教 授 野村 哲也
哲学特殊研究Ⅰ(講義)	笑いと教育	教 授 大竹 鑑
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	フッサールの現象学	教 授 訓覇 曄雄

哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	哲学的思惟の論理	教授	武田 武磨
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	ジョン・デューイの教育哲学	教授	大竹 鑑
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	Studies in ETHNOMETHODOLOGY	教授	野村 哲也
哲学特殊研究Ⅱ(文献研究)	解釈学の研究	教授	箕浦 恵了
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教授	訓覇 曄雄
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教授	箕浦 恵了
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	哲学の根本問題	教授	武田 武磨
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	「人間」研究のアプローチと方法	教授	野村 哲也
哲学特殊研究Ⅲ(演習)	「人間」研究のアプローチと方法	教授	大竹 鑑

仏教文化専攻

主要科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	日本の仏教と文化 —経典・縁起・伝承—	教授	片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	日本の仏教と文化 —経典・縁起・伝承—	教授	名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	唐代釈教碑と贅寧	教授	河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅰ(講義)	明時代の仏教	教授	滋賀 高義
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	沙石集の研究	教授	片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	『元亨釋書』の研究	教授	名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	唐代詩僧の研究	教授	河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅱ(文献研究)	宋代仏教史料の研究	教授	竺沙 雅章
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究	教授	大桑 斉
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究	教授	片岡 了
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	日本仏教文化の研究	教授	名畑 崇
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『統高僧伝』の研究	教授	河内 昭円
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『統高僧伝』の研究	教授	滋賀 高義
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『統高僧伝』の研究	教授	竺沙 雅章
仏教文化特殊研究Ⅲ(演習)	『統高僧伝』の研究	教授	藤島 建樹

関連科目

授 業 科 目	授 業 テ ー マ	担 当	
真宗学研究	真宗学の諸問題	教授	寺川 俊昭
真宗学研究	本年度休講		
真宗学研究	近代親鸞教学の研究	講師	本多 弘之
真宗学研究	大無量寿経の研究	講師	藤田 宏達
真宗学研究	法然浄土教の研究	教授	臼井 元成
真宗学研究(文献研究)	浄土論註	教授	神戸 和磨
仏教学研究	日本天台の論義	講師	白土 わか
仏教学研究	菩薩の諸相	講師	杉本 卓洲
仏教学研究(文献研究)	大乘大義章	教授	古田 和弘
仏教学研究(文献研究)	パーリ仏教教義集成 Sārasaṅgaha の研究	教授	吉元 信行
インド学研究	インド思想史入門	講師	前田 専学
哲学研究	現代フランス哲学の諸問題	講師	水野 和久
哲学研究(文献研究)	本年度休講		
倫理学研究	倫理学の諸問題	講師	寺崎 峻輔
倫理学研究(文献研究)	Karl R. Popper; The Poverty of Historicism	講師	寺崎 峻輔
宗教学研究	宗教哲学の諸問題 —宗教と言葉と倫理の問題—	講師	長谷 正當
宗教学研究	現代における宗教の諸問題	講師	大屋 憲一
社会学研究	宗教儀礼の諸問題	講師	岩田 慶治
教育学研究	明治教育史考	講師	大井 令雄
仏教文化研究	旧中国の政治と社会	講師	梅原 郁

仏教文化研究	日宋文化交流の諸問題	講 師	藤善 眞澄
仏教文化研究	本年度休講		
仏教文化研究	近代仏教思想史論	講 師	柏原 祐泉
仏教文化研究	律令公民制の研究	講 師	鎌田 元一
仏教文化研究	三宝感応要略録研究	講 師	後藤 昭雄
仏教文化研究	日本中世の国家と仏教	講 師	平 雅行
仏教文化研究	中世真宗史の諸問題	講 師	千葉 乗隆
仏教文化研究	芭蕉七部集の研究	講 師	山本 唯一
地域文化研究	ヨーロッパ文化の地理的背景	教 授	島田 正彦
真宗学研究(文献研究)	善導の『観経玄義分』研究	講 師	広瀬 杲
真宗学研究(文献研究)	『無量寿経優姿提舎願生偈註』	教 授	神戸 和磨

## 1995(平成7)年度 短期大学部開講科目一覧

### a. 共通科目

授業科目	授業テーマ	担 当	
仏教と人間 I	ブッダの生涯と私たちの人生	助 教 授	一色 順心
仏教と人間 I	ブッダの生涯と私たちの人生	助 教 授	一色 順心
仏教と人間 I	仏教と人間	専任講師	山野 俊郎
英 語	ENGLISH THROUGH JOKES	講 師	石川 渉
英 語	ENGLISH THROUGH JOKES	講 師	石川 渉
英 語	リスニングとリーディングを中心とした総合的英語技能の養成	講 師	上枝 美典
英 語	読解を中心とした実践的英語力の養成	講 師	上枝 美典
英 語	アメリカの変貌	講 師	藤田 愛子
英 語	アメリカの変貌	講 師	藤田 愛子
英 語	Pop Song Listening	講 師	菱木 政晴
英 語	英語総合演習 Input、Output	教 授	鈴木 繁一
英 語	英語の基礎力の総合的向上	講 師	東 治子
英 語	英語の基礎力の総合的向上	講 師	東 治子
英 語	英語の基礎力の総合的向上	講 師	東 治子
英 語	リスニングとリーディングを中心とした総合的英語技能の養成	講 師	上枝 美典
英 語	ENGLISH THROUGH JOKES	講 師	石川 渉

### b. 学科指定科目

#### 仏教科

授業科目	授業テーマ	担 当	
真 宗 概 説	親鸞の思想に学ぶ	教 授	安富 信哉
教行信証概説	親鸞の著作に学ぶ	助 教 授	延塚 知道
真 宗 学 I	親鸞の人間像に学ぶ	助 教 授	三明 智彰
真宗聖教演習 I	歎異抄に学ぶ	講 師	木越 康
真宗聖教演習 I	歎異抄に学ぶ	専任講師	加来 雄之
真宗聖教演習 I	歎異抄に学ぶ	専任講師	一楽 真
真宗聖教演習 II	歎異抄に学ぶ	教 授	安富 信哉
真宗聖教演習 II	歎異抄に学ぶ	助 教 授	三明 智彰
真宗聖教演習 II	歎異抄に学ぶ	助 教 授	藤嶽 明信
仏 教 概 説	仏教の根本教説と大乘仏教の思想	教 授	古田 和弘
仏 典 演 習 I	維摩経を読む	助 教 授	一色 順心
仏 典 演 習 I	維摩経を読む	助 教 授	宮下 晴輝

仏典演習Ⅰ	維摩経を読む	助教授	兵藤 一夫
仏典演習Ⅱ	法華経を読む	助教授	小谷信千代
仏典演習Ⅱ	法華経を読む	教授	木村 宣彰
仏典演習Ⅱ	法華経を読む	専任講師	織田 頭祐
真宗史	親鸞の生涯とその足跡	専任講師	一楽 真
日本仏教史	日本仏教の成立と展開	教授	佐々木令信
インド仏教史	本年度休講		
中国仏教史	中国浄土教の歴史	教授	安藤 智信
真宗学Ⅱ	浄土の三経に学ぶ	講師	中川皓三郎
仏教学	中国仏教の思想	教授	木村 宣彰
インド哲学	本年度休講		
真宗聖教演習Ⅲ	正信偈に学ぶ	助教授	藤嶽 明信
仏典演習Ⅲ	仏教の心理学 —『撰大乘論』を中心として—	助教授	小谷信千代

文化学科

1995年入学生適用

授業科目	授業テーマ	担当	
文化入門 1	西洋における人間と文化 宗教と人間、そして文化	教授	堀尾 孟
文化入門 2	宗教と人間、そして文化 西洋における人間と文化	教授	三桐 慈海
文芸概論 1	日本文芸とは何か	教授	三桐 慈海
文化史概論	日本文化史序説	教授	堀尾 孟
国際文化概論	国際文化と現代日本	教授	石橋 義秀
日本文学史 1	日本の古典	助教授	佐々木令信
日本文化史	中世文化の諸相	教授	鈴木 繁一
東洋文化史 1	「東洋」の多様性	専任講師	築山 修道
東洋文化史 2	「東洋」の多様性	助教授	赤瀬 知子
西洋文化史 1	西洋文化の流れ	講師	草野 頭之
西洋文化史 2	西洋文化の流れ	講師	加治 洋一
文化演習Ⅰ	読書・思索・文章表現	教授	加治 洋一
		教授	新村祐一郎
		教授	新村祐一郎
		教授	石橋 義秀
		講師	中寫 容子
		専任講師	赤瀬 知子
		教授	若槻 俊秀
		教授	佐々木令信
		助教授	江上 浄信
		教授	三桐 慈海
		教授	舟橋 尚哉
		助教授	築山 修道
		助教授	禿 憲仁
		助教授	並木 治
		専任講師	佐藤 義寛
		教授	鈴木 繁一
		専任講師	番場 寛
文化演習Ⅱ	96年度開講予定		
国語概説	日本語の諸相を学ぶ	教授	石橋 義秀
東洋文化史概説	文化と人間	講師	加治 洋一
地域文化論	インド・中国、英米、ドイツ、 フランス文化へのいざない	教授	舟橋 尚哉
		助教授	築山 修道
		教授	大河内了義
日本文学研究	96年度開講予定	助教授	並木 治

比較文化論	96年度開講予定		
作品演習 1	土佐日記	教授	石橋 義秀
作品演習 2	古今和歌集	専任講師	赤瀬 知子
作品演習 3	唐詩の鑑賞	教授	若槻 俊秀
作品演習 4	西洋の文学の読解力を養う	講師	岩見 至
作品演習 4	西洋の文学の読解力を養う	専任講師	番場 寛
史料演習 1	陰陽師の世界	助教授	木場 明志
史料演習 2	入唐求法巡礼行記	教授	三桐 慈海
史料演習 3	ヨーロッパの歴史家たち	教授	新村祐一郎
外国語演習 1	本年度休講		
外国語演習 2	英語文献読解：言語・文化・社会	助教授	築山 修道
外国語演習 3	ドイツ語文法・読本	助教授	禿 憲仁
外国語演習 4	無理なく学ぶ初級フランス語文法	助教授	並木 治
外国語演習 4	無理なく学ぶ初級フランス語文法	専任講師	番場 寛
外国語演習 5	語法から学ぶ中国語	専任講師	李 青
外国語演習 5	語法から学ぶ中国語	専任講師	渡部 洋
国語学	国語学の様々な分野での問題を考察する	講師	足立 雅代
国文法	日本語の文法	専任講師	赤瀬 知子
文章表現学	日本語の表現を考える	講師	西端 幸雄
日本文学	島崎藤村の研究	講師	平林 一
比較文学	比較文学研究が目指すもの	講師	岩見 至
映像論	映像的思考と文化	講師	水野 哲雄
演劇論	演劇学入門	講師	近藤 公一
音楽論	本年度休講		
生活文化史	日本古代の文字文化	専任講師	宮崎 健司
伝承文化史	仏教と民俗	教授	豊島 修
日本思想史	日本思想の展開	助教授	江上 浄信
東洋思想史	中国思想史	講師	加治 洋一
西洋思想史	近代西洋思想の形成	助教授	門脇 健
仏教美術史	日本の仏教美術	専任講師	宮崎 健司
言語学	言語学の各理論について考察する	講師	足立 雅代
対照言語学	日英語の言語学的・文化的比較	教授	鈴木 繁一
国際関係論	国際関係の体系的な理解	講師	田中 義皓
日本文化	日本古代の音楽	専任講師	宮崎 健司
東洋文化	インド文化史	教授	舟橋 尚哉
英米文化	英米文化の特質と現代世界におけるその役割	助教授	築山 修道
西洋文化	ギリシア文化（古代から現代まで）	教授	新村祐一郎

文化学科

1994年度入学生適用

授業科目	授業テーマ	担当	
文芸概論 2	文芸についての基本的知識と日本文芸美の特色を講義する	教授	喜多川恒男
作品演習 II	お伽草子の研究	教授	片岡 了
作品演習 II	『世間胸算用』巻三	助教授	沙加戸 弘
作品演習 II	岡本かの子の作品研究	助教授	荒井とみよ
作品演習 II	中国文学作品研究	教授	若槻 俊秀
文芸鑑賞	文芸の諸相を体験する	教授	石橋 義秀
		教授	喜多川恒男
ルポライティング	ルポルタージュの書き方	講師	中嶋 容子
言語学	言語学の各理論について考察する	教授	西田 良子
作品演習 III	唐詩の鑑賞	講師	足立 雅代
		教授	若槻 俊秀

作品演習Ⅳ	西洋の文学の読解力を養う	講師	岩見 至
日本文学	島崎藤村の研究	専任講師	番場 寛
国語学	国語学の様々な分野での問題を考察する	講師	平林 一
国語史	日本語の文法	講師	足立 雅代
映像論	映像的思考と文化	専任講師	赤瀬 知子
演劇論	演劇学入門	講師	水野 哲雄
音楽論	本年度休講	講師	近藤 公一
日本文学史2	日本文学史	講師	蔵田 敏明
比較文化論1	異文化間相互理解のための基本的諸問題	助教授	並木 治
比較文化論2	異文化間相互理解のための基本的諸問題	講師	加治 洋一
史料演習Ⅱ	文化史の諸問題	助教授	加治 洋一
史料演習Ⅱ	文化史の諸問題	講師	並木 治
史料演習Ⅱ	文化史の諸問題	教授	佐々木令信
東洋文化史1	「東洋」の多様性	専任講師	宮崎 健司
東洋文化史2	「東洋」の多様性	助教授	江上 浄信
史料演習Ⅲ	陰陽師の世界	講師	加治 洋一
史料演習Ⅲ	入唐求法巡礼行記	講師	加治 洋一
史料演習Ⅳ	ヨーロッパの歴史家たち	助教授	木場 明志
日本思想史	日本思想の展開	教授	三桐 慈海
東洋思想史	中国思想史	教授	新村祐一郎
西洋思想史	近代西洋思想の形成	助教授	江上 浄信
西洋文化史1	西洋文化の流れ	講師	加治 洋一
西洋文化史2	西洋文化の流れ	助教授	門脇 健
伝承文化史	仏教と民俗	教授	新村祐一郎
生活文化史	日本古代の文字文化	教授	新村祐一郎
国際関係論	国際関係の体系的な理解	専任講師	豊島 修
比較文化論1	異文化間相互理解のための基本的諸問題	講師	宮崎 健司
比較文化論1	異文化間相互理解のための基本的諸問題	講師	田中 義皓
比較文化論2	異文化間相互理解のための基本的諸問題	助教授	並木 治
比較文化論2	異文化間相互理解のための基本的諸問題	講師	加治 洋一
文化演習Ⅱ	漢訳『那先比丘経』	講師	加治 洋一
文化演習Ⅱ	—仏教とギリシャ思想との対決—	助教授	並木 治
文化演習Ⅱ	日中比較文化	教授	舟橋 尚哉
文化演習Ⅱ	英米文化と世界	専任講師	佐藤 義寛
文化演習Ⅱ	アメリカ大衆流行文化の本質を学ぶ	教授	鈴木 繁一
文化演習Ⅱ	ドイツの文化を学ぶ	専任講師	樋口 章信
文化演習Ⅱ	卒業研究作成のためのテーマ別研究	教授	友田 孝興
文化演習Ⅱ	異文化理解の方法を学ぶ	助教授	並木 治
対照言語学	・卒業研究作成を指導する	専任講師	番場 寛
西洋文化史1	日英語の言語学的・文化的比較	教授	鈴木 繁一
西洋文化史2	西洋文化の流れ	教授	新村祐一郎
東洋文化史1	西洋文化の流れ	教授	新村祐一郎
東洋文化史2	「東洋」の多様性	講師	加治 洋一
ドイツ語会話	「東洋」の多様性	講師	加治 洋一
(初級)	BASIC SPOKEN GERMAN	講師	J. Junge
フランス語会話	日常生活におけるフランス語会話の初歩	講師	D. L. Kurihara
(初級)	の習得		
中国語会話	実践的な中国語運用能力を養い高める	専任講師	渡部 洋
(初級)			
日本文化	日本古代の音楽	専任講師	宮崎 健司

東洋文化	インド文化史	教授	舟橋 尚哉
英米文化	英米文化の特質と現代世界におけるその役割	助教授	築山 修道
西洋文化	ギリシア文化 (古代から現代まで)	教授	新村祐一郎

幼児教育科

授業科目	授業テーマ	担当	
家庭教育	現代社会の中の家庭	教授	藤田 昭彦
保育指導論	保育指導の実際と保育者像の完成	講師	大城 邦義
幼児教育学	教育課程と保育計画	助教授	大西 正倫
保育原理 I	保育の基礎	助教授	大西 正倫
児童文化	手作り科学絵本	教授	西田 良子
児童福祉	児童の福祉システム	助教授	佐賀枝夏文
小児保健 I (a)	小児の成長・発育と健康の保持増進	講師	林 玲二
音楽 I	ソルフェージュと歌唱	助教授	豊住 征子
音楽 I	ソルフェージュと歌唱	助教授	豊住 征子
音楽 II (一)	鍵盤楽器 (1)	教授	岩田 宗一
		講師	伊吹 元子
		講師	岡田悠紀子
		講師	岡村 敬子
		講師	森田 佳子
		講師	中川 淳子
		講師	戸祭 英子
		講師	山本満佐子
		講師	小木谷好美
		講師	新実 悦子
		講師	中村 雅美
音楽 II (一)	鍵盤楽器 (1)	講師	森下 修次
		教授	岩田 宗一
		講師	伊吹 元子
		講師	岡田悠紀子
		講師	岡村 敬子
		講師	森田 佳子
		講師	中川 淳子
		講師	戸祭 英子
		講師	山本満佐子
		講師	小木谷好美
		講師	新実 悦子
		講師	中村 雅美
音楽 II (二)	鍵盤楽器 (2)	講師	森下 修次
		教授	岩田 宗一
		講師	伊吹 元子
		講師	岡田悠紀子
		講師	岡村 敬子
		講師	森田 佳子
		講師	中川 淳子
		講師	戸祭 英子
		講師	山本満佐子
		講師	小木谷好美
		講師	森下 修次
音楽 II (二)	鍵盤楽器 (2)	教授	岩田 宗一
		講師	伊吹 元子
		講師	岡田悠紀子



図画工作	美術一般	講師	岡村 敬子
図画工作	美術一般	講師	森田 佳子
体育	スポーツ活動	講師	中川 淳子
体育	スポーツ活動	講師	戸祭 英子
教育原論	人間の生涯と教育の意味	講師	山本満佐子
児童心理学	乳幼児の行動発達	講師	小木谷好美
保育内容Ⅰ (からだところ)	子供との接し方・保育・日常生活の知識	講師	森下 修次
保育内容Ⅱ(一) (人とのかかわりとことば)	子どもの言葉と子どもの文化	助教授	岡崎 紀子
保育内容Ⅱ(一) (人とのかかわりとことば)	子どもの言葉と子どもの文化	助教授	岡崎 紀子
保育内容Ⅱ(二) (人とのかかわりとことば)	社会性を育てる子どもの文化	教授	山田 知子
保育内容Ⅱ(二) (人とのかかわりとことば)	社会性を育てる子どもの文化	教授	山田 知子
保育内容Ⅲ (こどもをとりまくもの)	実習と観察を通して環境や自然の多様性を知る	助教授	大西 正倫
保育内容Ⅲ (こどもをとりまくもの)	実習と観察を通して環境や自然の多様性を知る	助教授	藤田 昭彦
保育内容Ⅳ (表現活動1)	身体表現及び楽器による表現	講師	仁科 周子
保育内容Ⅳ (表現活動1)	身体表現及び楽器による表現	教授	西田 良子
保育内容Ⅴ (表現活動2)	平面及び立体製作	教授	西田 良子
保育内容Ⅴ (表現活動2)	平面及び立体製作	教授	西田 良子
仏教保育演習Ⅰ	仏教保育研究	教授	加藤 尚子
仏教保育演習Ⅱ	保育者像の形成	教授	加藤 尚子
		講師	小松 りみ
		講師	山本満佐子
		助教授	小松 りみ
		助教授	山本満佐子
		助教授	岡崎 紀子
		助教授	岡崎 紀子
		講師	大城 邦義
		教授	岩田 宗一
		教授	藤田 昭彦
		教授	山田 知子
		教授	加藤 尚子
		教授	西田 良子
		助教授	岡崎 紀子
		助教授	佐賀枝夏文
		助教授	豊住 征子
		講師	大城 邦義

c. 自由科目

授業科目	授業テーマ	担 当	
I群			
仏教と人間Ⅱ	親鸞・人と思想	専任講師	加来 雄之
仏教と人間Ⅱ	親鸞・人と思想	専任講師	加来 雄之
哲学とは何か	哲学の思考方法	助 教授	須藤 訓任
倫理とは何か	幸福の問題	教 授	鈴木 幹雄
宗教とは何か	本年度休講		
日本の歴史	史料論—支配・制度・民衆—	講 師	上場 顕雄
中国の歴史	史記の伯夷列伝など	教 授	安藤 智信
ヨーロッパの小説	フランスを中心とするヨーロッパの小説の 流れと特質	講 師	岩見 至
児童の文学	宮沢賢治童話の世界	教 授	西田 良子
世界の音楽	音楽と宗教	講 師	高橋 曜子
日本の美	正倉院宝物の世界	専任講師	宮崎 健司
日本国憲法 1	日本国憲法とその思想的基礎	講 師	飯野 靖夫
日本国憲法 2	現代の憲法・国制をめぐる状況と法の社会 理論	講 師	飯野 靖夫
教育とは何か	私たちの身近な所から「教育」について 考える	専任講師	関口 敏美
現代社会と人間	我々の暮らしや社会関係を多角的に見つめ 直す	助 教授	高井 康弘
心の科学	心の働き・しくみを探求する	専任講師	杉原 保史
世界経済の中の日本	世界経済と日本経済	講 師	岡田 賢一
現代社会と政治	転換期の政治	講 師	萬田 悦生
報道と社会	「マスコミ社会」の、いま	講 師	吉田 賢作
遺伝子としてのDNA	遺伝子としてのDNAの構造と機能	教 授	加藤 尚子
遺伝子の働き	遺伝情報の発現	教 授	加藤 尚子
生命と進化	生物の共通性と多様性	教 授	日下部有信
地球の科学 1	地球の構造とその年齢	講 師	阿部 悦夫
地球の科学 2	地殻の変動と日本列島	講 師	阿部 悦夫
環境科学	環境問題とは何か	教 授	日下部有信
東洋の暦法	太陰太陽暦法(旧暦)のしくみ	助 教授	木場 明志
II群			
哲学概論	本年度休講		
倫理学概論	倫理学とは何か	専任講師	渡辺 啓真
宗教学概論	意識と自覚	教 授	堀尾 孟
宗 教 学	神と人間	助 教授	門脇 健
キリスト教概説	キリスト教概説	講 師	土肥 昭夫
同和教育 1	人間の解放とは何か	専任講師	泉 恵機
女性史	日本の女性はいかに生きてきたか	教 授	松村 尚子
社会福祉	「福祉の時代」を生きる	助 教授	佐賀枝夏文
文化人類学	食文化の比較	助 教授	滝口 直子
現代文化論	現代日本社会観の再検討	講 師	小川 賢治
社会学概論	現代社会のかかえる問題と社会学	講 師	小川 賢治
社会心理学	社会心理学を学ぶ—入門クラス	助 教授	滝口 直子
マスコミ論	送り手と受け手の論理	講 師	吉田 賢作
中国文学概説	中国文学概説	専任講師	佐藤 義寛
書道史	中国書道史	講 師	萩 信雄
古典文学鑑賞	歴史物語の研究	講 師	蔵田 敏明
近代文学鑑賞	文学作品を読むこと	講 師	青木 稔弥
漢文演習	漢文文献の諸形態	教 授	三桐 慈海

考古学	考古学入門	講師	難波 純子
古文書演習	古文書について、人より強くなろう	講師	橋本 初子
仏教美術鑑賞	装飾経を中心とした古写経の美を探る	講師	赤尾 栄慶
運動遊戯	楽しい体育遊び	教授	山田 知子
造形	銅版画・陶器	助教授	岡崎 紀子
歌唱法 1	レパートリーの拡大	助教授	豊住 征子
歌唱法 2	レパートリーの拡大	助教授	豊住 征子
Ⅲ群			
英語 1	Listen, Repeat, and Speak	教授	鈴木 繁一
英語 2	英文エッセイの読解	講師	菱木 政晴
英語 3	英文エッセイの読解	講師	菱木 政晴
英語 4	Sylvia Plathの短編を読む	講師	岡村真紀子
英語 5	Sylvia Plathの短編を読む	講師	岡村真紀子
英語 6	Listen, Repeat, and Speak	講師	高須 忞子
英語 7	英語読解力の養成	講師	河野 一典
英語 8	英語読解力の養成	講師	河野 一典
英語会話 I - 1	Elementary English Conversation	講師	D. Burgess
英語会話 I - 2	Elementary English Conversation	講師	D. Burgess
英語会話 I - 3	Elementary English Conversation for Beginners	講師	C. Rokoszak
英語会話 I - 4	Elementary English Conversation for Beginners	講師	C. Rokoszak
英語会話 I - 5	Elementary English Conversation for Beginners	講師	C. Rokoszak
英語会話 I - 6	Elementary English Conversation	講師	J. A. Clancy
英語会話 I - 7	Elementary English Conversation	講師	J. A. Clancy
英語会話 I - 8	Elementary English Conversation	講師	J. A. Clancy
英語会話 II	Intermediate English Conversation	講師	R. L. Seltman
ドイツ語 I - 1	ドイツ語初級文法	講師	川口 晃
ドイツ語 I - 2	文法読本に基づくドイツ語入門	講師	小野 良世
ドイツ語 I - 3	ドイツ語の初歩	講師	林 湛秀
ドイツ語 II	文学作品テキストの読解練習	講師	藤島 学陵
ドイツ語会話	BASIC SPOKEN GERMAN	講師	J. Junge
フランス語 I - 1	フランス語初級文法の把握	講師	杉山 朱実
フランス語 I - 2	日常生活の中のフランス語	講師	森本 美和
フランス語 II	日常生活の中のフランス語	講師	森本 美和
フランス語会話	フランスの日常生活における各種表現の習得	講師	D. L. Kurihara
中国語 I - 1	初級中国語入門	講師	阿辻 哲次
中国語 I - 2	中国語入門	講師	森 博達
中国語 II	本年度休講		
中国語会話 1	やさしい日常会話の習得	講師	文 楚雄
中国語会話 2	中国語入門	講師	劉 建
Ⅳ群			
情報処理 I - 1	日本語ワープロの扱い方	教授	西田 潤一
情報処理 I - 2	「ワープロ」を通して「情報」についての発信、受信、編集、判断能力の育成	講師	辻 良則
情報処理 I - 3	「ワープロ」を通して「情報」についての発信、受信、編集、判断能力の育成	講師	辻 良則
情報処理 I - 4	統合ソフトを使っの効果的な文書作り	講師	寺江 実和
情報処理 II - 1	日本語英語混じりの文書の処理と表計算	教授	西田 潤一
情報処理 II - 2	実践に生かせる書類作り	講師	寺江 実和

V群 運動文化と人間 人生と体育  スポーツ研究1	運動文化とその史的周辺 現代社会や個々人の生涯の中での体育の 意味 スポーツの生活化	専任講師 教授	中森 一郎 山田 知子
	スポーツ研究2	スポーツの生活化	山田 知子 辻 浅夫 大木 久和 清水 啓司 宮村 茂記 竹内 京一 田中 真実 秦 優子 瀬戸 進 山田 知子 中桐 伸吾 中森 一郎 竹内 京一 田中 真実 大木 久和 八木 保
VI群 実践中国語 中国文化事情 インドの宗教と文化	中国（現地）で生の中国語を学ぶ 現代の中国文化事情を知る インドの宗教と文化	専任講師 専任講師 教授	李 青 李 青 小川 一乗

#### d. 諸課程科目

##### 教職課程

##### 中学校教諭2種免許

授業科目	授業テーマ	担 当	
教育原論	「教育とは何か」を考えるために	専任講師	関口 敏美
教育心理学	発達・学習・教授	教授	藤田 昭彦
青年心理学	思春期の心理	教授	藤田 昭彦
教育社会学	教育と社会の関係を学ぶ	助教授	滝口 直子
教育行財政学	教育行財政にかかわる基本的事項を正確に 理解し、教育行政の思考方法を身につける	講師	田中耕二郎
教育方法論	現代の教育課題に対応した教育方法の考察	教授	守谷 正己
教科教育法 (宗教科)	宗教教育の実際	助教授	門脇 健
教科教育法 (国語科)	中学校における国語科教育法	講師	菊井 淑子
道徳教育の研究	授業「道徳」の目的と方法	教授	大竹 鑑
教育指導論A	特別活動の意義と重要性	教授	守谷 正己
教育指導論B	生徒指導とカウンセリング	教授	酒井 汀
教育実習	教育実習の意義と実習のあり方		
同和教育1	人間の解放とは何か	専任講師	泉 恵機
同和教育2	差別と人権	講師	山田 光二
同和教育3	部落解放と教育の歴史	講師	山田 光二

##### 幼稚園教諭2種免許

授業科目	授業テーマ	担 当	
視聴覚教育	拡大するメディア	教授	藤田 昭彦

教育実習	「保育者」への成長	教授	岩田 宗一
同和教育 1	人間の解放とは何か	専任講師	泉 恵機
同和教育 2	差別と人権	講師	山田 光二
同和教育 3	部落解放と教育の歴史	講師	山田 光二
国語（児童文学）	児童文学における物語性	教授	西田 良子

保母養成課程

授業科目	授業テーマ	担当	
社会福祉 I	「福祉の時代」を生きる	助教授	佐賀枝夏文
社会福祉 II	保育実践とケースワーク	助教授	佐賀枝夏文
社会福祉 II	保育実践とケースワーク	助教授	佐賀枝夏文
養護原理 I	保育者のための大脳生理	助教授	佐賀枝夏文
教育心理学	発達・学習・教授	教授	藤田 昭彦
小児保健 I (b)	小児集団の保健、小児の主な病気とその取り扱い	講師	林 玲二
小児保健（実習）	小児の生活にかかわるすべての事柄を保健という目でとらえる	講師	栗本アヤ子
小児保健（実習）	小児の生活にかかわるすべての事柄を保健という目でとらえる	講師	栗本アヤ子
小児栄養	小児の栄養	講師	林 玲二
小児栄養（実習）	調理実習を通じて乳幼児食及び学童食を理解する	講師	吉田 陽子
小児栄養（実習）	調理実習を通じて乳幼児食及び学童食を理解する	講師	吉田 陽子
精神保健	精神現象と人間の適応	教授	藤田 昭彦
乳児保育 I	0・1・2才児はどのように育つのか、保育者はどうあるべきか	講師	仁科 周子
保育実習 I	保母資格取得のための必修の実習	助教授	佐賀枝夏文
保育原理 II	保育者像を求めて	講師	大城 邦義
乳幼児心理学	乳幼児期の心理学的理解	教授	藤田 昭彦
乳幼児心理学	乳幼児期の心理学的理解	教授	藤田 昭彦
青年心理学	思春期の心理	教授	藤田 昭彦
養護内容	人間関係「実践養成」講座	助教授	佐賀枝夏文
保育実習 II	保育所保母を志す学生のための選択実習	助教授	佐賀枝夏文
保育実習 III	施設保母を志す学生のための選択実習	助教授	佐賀枝夏文
保育実習	保育所、または入所施設における選択実習	助教授	佐賀枝夏文
同和教育 1	人間の解放とは何か	専任講師	泉 恵機
同和教育 2	差別と人権	講師	山田 光二
同和教育 3	部落解放と教育の歴史	講師	山田 光二

博物館学課程

授業科目	授業テーマ	担当	
博物館学	博物館学芸員はいかにあるべきか	講師	灰野 昭郎
教育原論	「教育とは何か」を考えるために	専任講師	関口 敏美
社会教育の基礎	社会教育の理念と課題	講師	福西 信幸
視聴覚教育	博物館・美術館における視聴覚教育の意義と機材の利用法について考える	講師	赤尾 栄慶
博物館実習 I	資料取扱法	教授	豊島 修
博物館実習 I	資料取扱法	専任講師	宮崎 健司
博物館実習 I	資料取扱法	助教授	一色 順心
博物館実習 I	資料取扱法	助教授	大内 文雄
博物館実習 I	資料取扱法	助教授	木場 明志

博物館実習Ⅰ	資料取扱法	助教授	草野 颯之
博物館実習Ⅰ	資料取扱法	助教授	沙加戸 弘
博物館実習Ⅰ	資料取扱法	助教授	安藤 文雄
博物館実習Ⅱ	学外実習	教授	豊島 修
古文書読解	近世古文書読解	講師	中嶋 容子

日本語教師養成課程

授業科目	授業テーマ	担当	
日本語学概論	日本語とはどのような言語か	講師	藤井 涼子
日本語教授法	日本語が母語・第一言語でない外国人や帰国子女等に日本語を教える際の方法について、理論的・実践的な講義をおこなう	講師	玉村千恵子
日本語教育概論	日本語教育の目的・内容・歴史などについて概説し、日本語教育全般にわたる認識をあたえる	講師	玉村千恵子

図書館学課程

授業科目	授業テーマ	担当	
図書館通論	図書館とは何か。望まれる図書館員像。	講師	廣庭 基介
図書館活動	図書館活動	専任講師	村松 法文
図書館資料論	図書館資料論	専任講師	村松 法文
参考業務	参考業務の理論	講師	武内 隆恭
参考業務演習	参考図書の探索と参考質問の回答	講師	武内 隆恭
資料目録法	和漢書目録法	講師	横田 憲
資料目録法演習	和漢書目録法(演習)	講師	横田 憲
資料分類法	知識と図書の分類	講師	尾崎 正治
資料分類法演習	書架目録と書誌学	講師	尾崎 正治
資料整理法特論	資料整理法特論	専任講師	村松 法文
図書及び図書館史	図書及び図書館史	専任講師	村松 法文
人文科学及び社会科学の書誌解題	人文科学及び社会科学の書誌解題	専任講師	村松 法文
視聴覚教育	視聴覚教育	専任講師	村松 法文

真宗大谷派教師課程

授業科目	授業テーマ	担当	
声明作法	声明の実践	講師	仁科 和志
仏教音楽	仏教讃歌の歌唱と声明史	教授	岩田 宗一
化学	真実に生きよー生きることを学ぶー	講師	児玉 保
宗教法規	宗教法規の変遷と法作用について	講師	不和 仁
同和教育1	人間の解放とは何か	専任講師	泉 恵機
同和教育2	差別と人権	講師	山田 光二
同和教育3	部落解放と教育の歴史	講師	山田 光二

### 3. 語学教育

本学では外国語学習の意義を、その建学精神にも関わるものとして積極的に捉え、従来から語学教育には十分な配慮を払うべく努めてきた。ただ一方で、いわゆる大学大衆化のいっそうの進展にともない、語学教育の面でも従来は目立たなかったさまざまな問題が顕在化してきたことは事実であり、本学でもその対応が迫られることになった。本学は文学部の単科大学として、必修科目としての外国語の必修単位数を大幅に軽減ないし撤廃する一般的傾向に安易に同調すること

は避け、この数年間、慎重に新たな方向を模索してきた。そして新たな時代的要請や学問的必要性に、また大学大綱化の精神にもより柔軟に応るべく、1992年度から、新入生を対象にかなり大幅なカリキュラム改革を行った。

すなわち、それまで文学部1、2回生次に第一外国語（英語）と第二外国語（ドイツ語またはフランス語）が設けられ、それぞれ10単位（1回生次に週3回授業、2回生次に週2回授業）が必修だったものを、92年度からは、それぞれ6単位（1回生次に週2回授業、2回生次に週1回授業）の必修にとどめることとした。また、選択必修の第二外国語として新たに中国語を加えた。一方、「自由科目」群のなかに、必修語学クラスとは若干性格を異にする外国語クラス（例えば会話・作文クラス等）を設置し、韓国・朝鮮語、ギリシャ語、ラテン語、サンスクリット語、ペリ語、チベット語、ヒンディー語等の諸外国語も含め、多種多様な外国語科目のなかから、学生が自分の興味と必要に応じて自由に科目を選び、比較的少人数のクラスで、より密度の高い効果的な学習をすることを可能にした。これらの科目の単位は、卒業要件単位に含まれる。現在は、当初の予想を越える多くの学生が熱心にこれらの自由科目を受講している。自由科目群の外国語クラスの現況（履修者数、クラスの雰囲気、その他）はおおむね満足できるものといえる。ただ強いて言えば、同一外国語科目を中上級のレベルまで粘り強く継続する学生がやや少ないという点が指摘できる。この点は今後のいっそう充実した語学教育への展開と改善を考えるうえで、見逃せない反省点となろう。

「読む」ことを重視した従来の受信型外国語学習から、今日特に強く求められている発信型外国語学習への展開を考える上で、「聞く」「話す」「読む」「書く」総合的な言語運用能力を養成することが肝要と考えられるが、こうした教育でネイティブ・スピーカーの教師が果たす役割はきわめて大きいと言わねばならない。特に本学では、文学部に国際文化学科が、短期大学大学部の文化学科に国際文化履修コースが相前後して設置されたこともあり、学生の各地域文化研究もしくは異文化間コミュニケーションの問題について広く助言し指導しうる外国人専任教員の存在が、特にここ数年来ぜひとも必要とされてきているのである。幸い昨年度までに、これまでネイティブ・スピーカーの専任教員がいなかったドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語の分野に、それぞれ学識経験ともに豊かな外国人専任教員を迎えることができた。これらのスタッフは教室での外国語教育以外でも公的語学検定試験受験指導や海外研修引率その他さまざまな面で重要な役割を果しており、またそれらによって語学教育の効果は明らかに高められているといえる。

その一方で、これまで読解訓練を主たる目的としてきた必修科目（本学では「共通科目」と称する）の外国語クラスには、現在なお若干の問題が残されているように思われる。10単位から6単位への必修単位数の軽減は、たしかに学生に余裕をもった学習を可能にさせ、相当数の学生に以前に増して外国語の自発的学習意欲をもたらしたことは確かである。しかし、かなり多くの学生に見られる、地道な学習努力や集中力の不足、またそれによるクラス運営の難しさ等、問題はまだまだ残されていることは認めざるをえない。もちろん、これは本学に限った現象でなく、多くの大学が共通して抱える問題ないし悩みと言ってよいだろうが、本学には比較的いわゆる「語学嫌い」が多いことも事実であって、語学授業活性化の問題は、われわれにとって非常に重要であると認識している。本学に受け入れた学生たちの知的関心を十分に喚起し、学生の能力を最大限に引き出しうる語学教育、学生を無理のない範囲で継続的に鍛える語学教育を、われわれは目指さねばならないと考えている。

なお、こうした本学における外国語学習の基本方針について、その学習の意義、辞書・参考書の紹介、それぞれの外国語の学び方についての具体的助言、検定試験その他に関する情報等々を盛り込んだ独自の「外国語学習の手引」を作成し、新入生全員に配布している。これは外国語科目選択の際の指針として、また、習得意欲や学習効果の向上をねらって作成されたものである。

語学教育のいっそうの活性化をめざし、1996年度には語学教育委員会が設置され、さまざまな検討を真剣に重ねてきたが、その研究成果にもとづき、97年度からは、それぞれの語学授業を学生各自の興味とレベルにより合致させいっそう実りあるものにすべく、新たな改革の準備がなされている。すなわち、第一外国語（英語）では新たに学生の希望により基礎レベルクラスの選択が可能になり、第二外国語では2回生次で自分のクラスを基本的に自由に選択できる仕組みが準備されている。このほかにも、ティーチング・アシスタント制度の導入、コンピューターの活用等、早急に検討すべき問題は多々残されている。以上のような基本的現状認識と反省の上に立って、本学では今後も引き続き「実状に即した外国語教育の充実、多様化」（『学園整備総合企画委員会答申』）に向け鋭意取り組んでゆく方針である。

#### 4. 教育活動の多様化

大学における教育活動について言えば、教育関係機器の進歩、マルチメディア・情報化社会の到来などの外的要因による変化や、大学進学者の増加に伴う学生の勉学意欲の変質や大学への期待度の変化など大学の質的变化、あるいは国際化社会の到来など社会的な変化などの影響は大学にも顕著に現れていると言うべきである。従来、教室における単なる講義の形式にとどまらない多様な学習形態が用いられるようになり、同時に、より学習効果を高めるためのさまざまな機器の導入なども行われ、教育活動はより多様化し、質的に変化してきたことが特徴とされるであろう。

##### (1) 教育機器の導入

###### a. LL 教室・AV 教室の整備

1982（昭和57）年、本部・研究室棟である博綜館の新築工事の完了にともない、それまで懸案とされていた LL 教室が整備された。フル・ラボの機能をもつ最新鋭の教師用マスターコンソールと共に、学生用60ブースが設けられ、外国語教育を中心として活用された。その後、普通教室にも簡易的なラボ設備を順次設ける努力を続け、1990（平成2）年には AV 棟の増築により最新の機能を備えた LL 教室が更に増加され、1995（平成7）年度までに、簡易な設備も含め計13教室に LL 設備が整備されている。

なお、博綜館地階の LL 教室にはスタジオが併設され、教材作製などにも用いられている。そのほか、学生の自主学習のための機材も整備され利用されている。同時にまた、テープ、ビデオなどの語学教材の収集も行い、学生の自由使用や貸し出しにも対応している。この LL 教室の運営は、語学担当教員の中から LL 運営委員が指名されてこの任に当たっている。

また、この LL 教室には実物投影機、OHP、スライド、VTR、8ミリ、16ミリ映写機などの視聴覚機材も整備され、外国語以外の授業にも活用されることとなった。

この時期頃より、VTR・レーザーディスクなどの機材が一般的に利用できるようになったこともあり、視聴覚教材の授業への使用が多くみられるようになってきた。これらの状況に対応するため順次普通教室への機材配備を行ってきたが、1990（平成2）年の1号館 AV 棟の増築によりかなり機器整備は充実したと言ってよいであろう。現在は200インチや100インチのビデオプロ



ジェクターをはじめ、実物投影機など合計17教室に何らかのAV関連機器の設備がなされている。

#### b. 情報処理教室の開設

1992(平成4)年4月、短期大学部国文科の文化学科への改組に合わせ、本学最初の情報処理教室が2号館に開設され、パナソニックM550が50台設置された。ついで1993(平成5)年4月文学部に国際文化学科が開設されたのに合わせ1号館にも情報処理教室を設置し、NEC PC 9801 64台を設置した。

これら教室の開設と同時に、新規に情報処理に関する科目を開講した。これらは電算機の初歩的知識から、一般的操作・文書作成・表計算などを教育目標とするもので、自由選択科目であったが受講希望者が多く、年度始めには受講者の抽選を行わねばならない現状である。この他、一部講読などいくつかの科目においても情報処理教室を利用して講義が行われた。

同時に、情報処理教室にはアシスタントとして嘱託を配備して授業の補助を担当させた他、教室が授業に使用されない時は、学生の自由使用時間として開放し、嘱託職員が指導にあたる体制も整備した。

これらの教室は、1号館の教室には教室全体にネットワークを配備し、2号館の教室にはマルチメディアに対応できるように、1995(平成7)年度にMacintosh7100 40台に機器を入れ替えるなどの配慮・整備を重ねているが、ウィンドウズの出現、インターネットの利用など当該分野の技術的進歩はめざましいものがあり、ソフト・ハードの両面において十全な対応がしきれていない面が多いと言わざるを得ない現状である。

### (2) 語学教育の充実

#### a. ネイティブスピーカーの登用

本学の外国語教育は、共通科目としての第一外国語に英語、第二外国語にドイツ語、フランス語、中国語を開設している。同時にこれらの言語について、上級クラスの会話・作文などのクラスを自由選択科目として開講している。さらに自由選択科目には韓国・朝鮮語、チベット語、パリー語など多彩な外国語科目を開講している。同時に国際文化学科には、英語・ドイツ語・フランス語・中国語に関する多様な内容の科目が開講されている。

これらの語学科目群について、平成7年度までにフランス語をのぞいたそれぞれの言語に、教育の中心となる専任教員としてネイティブスピーカーの採用が実現し、非常勤教員にも多くのネイティブスピーカーを登用することを得て、従来の読解中心の語学教育から、会話を中心とするなどの語学教育の変化・充実を図ることができた。1995(平成7)年度末の専任ネイティブスピーカーは6名、非常勤教員は4ヵ国語について計12名である。

#### b. 教育内容の多様化

前項において述べるように、語学教育の内容について「聞く」「話す」を重視した、実用的学力の涵養に注意が払われるようになったこと、会話・作文などの上級クラスを多様化したこと、第2外国語として中国語を開設したこと、ポルトガル語、韓国・朝鮮語などより多彩な種類の外国語を開講したことなど、語学教育に関する近来の本学の対応は、多様化の時代であったと総括することが可能であろう。

### (3) 国際交流の実現

#### 短期研修の導入

仏教学科が中心となって推進してきた、夏期休暇中のインド仏教遺跡研修旅行は、正式に大学

主催行事として実行されてきた。さらに平成7年度からは「インド文化研修」として位置づけられ、事前・事後の講義も含み正式の講義として単位認定されることとなった。同時に1995（平成7）年度より北京師範大学との学術交流協定に基づき、これも事前・事後講義とともに、北京師範大学での3週間の講義及び1週間の現地研修を加え「中国語学研修」の授業が開講された。インド仏教遺跡研修には2班108名が、中国語学研修には23名の学生が参加した。

これら大学が制度として実施する国際交流の他、教員がゼミ単位で学生を引率して海外研修に出向く機会も近年多くみられようになり、中国、韓国、アメリカ、フランス、ドイツなどその範囲は年々拡大しているのが現状である。

これら海外研修は、国際的な視野の涵養のみならず、学生にとっては身近な日本文化を見直す機会ともなっており、同時に前項とも関連して外国語学習の教育機会としても有効に機能していることは勿論である。

#### (4) その他

##### 見学学習の導入

博物館や史跡などの見学研修は、授業単位あるいは学科単位などで随時実施されている。あるいは学科、専門分野単位での研修旅行や、一夜研修会、ワークショップなども実施されている。あるいは大学や学科の主催で行われる異文化としての芸術鑑賞の機会なども日常の学習活動以外の機会としてあげることが出来るであろう。

### 5. 学生研究室の整備

本学では、学生・大学院生などの研究者の自由な研究活動を支援するための独自の施設として学生研究室を整備している。文学部にあつては、従来6学科8研究室体制であったものを、1982（昭和57）年博綜館建設に際して、数年の検討を経て4群6層の研究室として整備したものと、1993（平成5）年、国際文化学科開設にあわせ1号館に新設した第五研究室とがそれである。短期大学部にあつては2号館に3学科ごとに研究室が整備されている。ただし文化学科のみは、国文科から改組開設した際、定員を大幅に増加したので、2室を使用している。

学生用の研究室は、基本的な図書資料を配備し、学習に関して補助的な助言を行える特別研修員または助手などを常置せしめて、授業開講の時間帯程度を開室することを一応の原則として運営され、学生は誰でも自由に使用できる。従来、研究室を使用できる学生を、2回生以上の専門分野を決定した学生以上としていたが、カリキュラム大綱化によって1回生から専門科目としての学科指定科目の履修が可能とされたことに伴い、現在はこの規制を廃している。

文学部の4群6層の研究室は、次のように構成されている。

第一研究室	真宗学科・仏教学科	博綜館5階
第二研究室	哲学科・社会学科	〃 4階
第三研究室	史学科	〃 3階
第四研究室	文学科	〃 2階

これらの研究室は、4層の構造となっているが、階段室を兼ねた6層の書庫により相互に連繋できるよう配置されており、学生・研究者は自己の専門とする分野以外の資料を閲覧し、他の分野の研究者と交流できるよう配慮されているのである。学問の細分化にともない、とかく生じがちな学科間・研究室間の閉鎖性・孤立性を出来るだけ廃し、空間的にも、図書資料のうえでも相互に連携して学問の総合性を求めるとともに、学際的分野の研究をも推進しうる、学問的視野と学

問意識の拡大とをねらって構成されたものである。

各研究室は研究室主任の統括のもと、文学部研究室にあっては特別研修員と嘱託事務員が、短期大学部研究室にあっては助手がその運営に当たる。他に文学部研究室には大学院博士後期課程の学生に1人ずつ個人用の机を配置して研究に従事する。

文学部研究室にあっては特別研修員・大学院博士後期課程学生が相互に研究面での研鑽を重ねながら、学生の研究上の指導・相談に当たることとなり、学生指導上にも有益であるとともに、この指導上の経験が独立した研究者として備えるべき資質の涵養にも役立つことを意図したものである。

文学部研究室には、学生・大学院生など若手研究者・教員が共同して使用する広い一般研究室の他、多目的に使用する分室が各2室付属しており、輪読会や研究会などの研究活動に使用できる他、学会の事務室などに使用できるよう配慮されている。開設当初は、独自で自由な研究活動を保証するとの観点から、研究室分室の授業での使用は禁じていたが、最近では演習・文献研究に使用するケースが増加している。

## 6. 研究・学習成果の確認

### (1) 研究成果としての修士論文・卒業論文

大学において学生は、指導教員の指導のもと、講義・講読・演習に参加するなかで、テーマを選定し、問題点を整理し、調査・収集・検討・分析の作業を重ね、自ら考察し判断する能力を修得していく。このような教育課程のなかで、本学は文学部の大学として、学習・研究の成果を集大成するために、全学生に論文の作成を義務づけている。

大谷大学文学部にあっては、400字詰め原稿用紙50枚以内で1月上旬までに卒業論文の提出を課している。また大谷大学大学院文学研究科修士課程にあっては、400字詰め原稿用紙200枚以内で、12月中旬までに修士論文の提出を課している。卒業論文・修士論文とも提出された後、主査1名、副査1名以上により口述試問が実施され、学生の成果を確認し、その成果についての総括を行うこととなっている。また、大学院博士後期課程の学生にあっては、課程の要件として論文の提出は義務づけられていないが、その研究課程において、すぐれて高度な研究成果が求められていることから、大学院が毎年学術雑誌を発行し、その誌上に掲載し広く学会に提示する研究論文の作成を義務づけている。

なお、文学部では、従来、卒業所用単位134単位中に卒業論文12単位を課してきたが、1992(平成4)年度の大綱化により卒業所用単位を124単位に軽減したことにより、教育内容は従前のまま維持しつつ、卒業論文の単位を8単位に軽減した。

### (2) 卒業研究の作成

大谷大学短期大学部では、従来、学生の研究指導の一環として、仏教科・幼児教育科並びに、文化学科の前身である国文科の3学科に、それぞれ独自に「卒業研究レポート」の作製が課されていた。しかし、各科独自に実施してきたため、指導時間、方法等の統一性が乏しく、開講科目単位との関係も明確ではなかった。

学生がテーマを選定し、調査し、考え、文章化する過程により得られる教育効果を評価し、学生の努力や意欲に答えるため、1983(昭和58)年4月より、「卒業研究」を新規に開講し、卒業要件の一つとして位置づけた。学生の学習・研究活動の総括としての「卒業研究」は、有効な教育活動として、2年間の教育課程における中心的な役割を担っている。

具体的には、卒業所用単位62単位中に卒業研究2単位を課し、400字詰原稿用紙25枚以内で、仏教科・文化学科にあっては10月下旬、幼児教育科にあっては実習期間の関係から11月下旬に卒業研究の提出を課している。卒業研究においても論文提出後、主査1名、副査1名以上により口述試問が実施され、学生の成果を確認するとともに、卒業後の社会活動に生かせるよう総括を行っている。

### (3) 成果の公表

学生が大学における学習・研究成果の集大成として作製する卒業研究、卒業論文、修士論文、及び学会に提示する高度な研究論文は、それぞれ大学が発行する雑誌に掲載され学内外に毎年公表されている。

#### a. 『大谷大学大学院研究紀要』

大谷大学大学院が毎年発行する学術雑誌で、1995（平成7）年度で第12号を数える。学会に提示するすぐれて高度な研究論文が要求されるため、大学院博士後期課程の1・2回生次の研究成果を基礎とし、3回生次にまとめられた研究論文を応募するよう指導している。応募論文の掲載にあたっては、大学院委員会より選出される編集委員会において選定される。

#### b. 『大谷学報』

大谷大学が発行する学術雑誌『大谷学報』に、前年度に提出された修士論文・卒業論文のすべての題目の一覧を掲載し公表している。

#### c. 『仏教研究紀要』

大谷大学短期大学部仏教科が毎年発行する雑誌で、1995年度で第18号を数える。仏教科学生で卒業研究を提出した者のうち、特に優秀な卒業研究については全文を掲載し、他の者については、卒業研究要旨を掲載し公表している。

#### d. 『大谷大学短期大学部文化学科紀要』

大谷大学短期大学部文化学科が発行する雑誌で、1995年度で第3号を数える。文化学科で卒業研究を提出した全学生のうち、特に優秀な卒業研究については全文を掲載し、他の者については、卒業研究要旨を掲載している。

#### e. 『卒業研究』

大谷大学短期大学部幼児教育科が毎年発行する雑誌で、1995年度で第29集を数え、全学生の卒業研究の要旨を掲載している。

### 研究成果の一覧『大谷大学大学院研究紀要』

8号（1991年12月1日発行）

執筆者	専攻	題 目
足立 幸子	真宗学	源空の浄土三部経観
田中 良典	真宗学	名号の世界
由良 章三	真宗学	自然のことわり—量子論とのかかわりに於て—
稲葉 広由	仏教学	智顛の業相観—法華三昧を通して—
大窪 康充	仏教学	如来性悪説の考察
大橋 洋	哲学	初期ニーチェの科学批判—ソクラテスと典型の認識をめぐる—
大野 雅仁	仏教文化	隋文帝時代の仏教—開皇期の名僧の招致をめぐる—

中川 真二	仏教文化	『伊勢物語』百十七段の解釈をめぐって—為願流の存在とその影響—
吉井 克信	仏教文化	九条兼実の仏教信仰—護持僧実厳と尊勝念誦・愛染王供養—
樋田 道男	仏教学	名言熏習 (mngon par brjod pa bag chas) の問題 —『撰大乘論』にみる現象世界の解釈の特徴—
山本 和彦	仏教学	Mañikanṭha Mīśra on <i>Paksatā</i> (1)
田家 勝成	哲学	社会教育体制成立期における「社会」と教育 —1910年代における教化機関としての学校を中心に—

9号 (1992年12月1日発行)

執筆者	専攻	題 目
調 晋一	真宗学	善導の観経観
三木 彰円	真宗学	難治の機—課題的存在としての人間—
三宅 英人	真宗学	真仏弟子—自らを偽らず他に偽わざる者—
長澤 円	仏教学	『大般涅槃経』に於ける如来常住と悉有仏性 試考
西山 進	仏教文化	高僧伝の一側面—「犯戒」と「佯狂」を手がかりとして—
月輪 理	仏教文化	東大寺領編成における口分田相替について
東館 紹見	仏教文化	平安初期における法華講会の展開
竹橋 太	仏教学	『金剛般若経』の研究—法と想について—
原田 高明	仏教学	インド水銀学派—インドにおける水銀と神秘主義—

10号 (1993年12月1日発行)

執筆者	専攻	題 目
吉田 宗男	真宗学	『涅槃経』引用の要素—闡提と阿闍世をめぐって—
権藤 正信	真宗学	無上仏道の開頭—真仏弟子釈「与韋提等即可獲得喜悟信之忍」の意義を巡って—
西坂 孝介	真宗学	願生浄土—本願成就の一心—
御手洗隆明	真宗学	初期真宗と善鸞
生田 亮	仏教学	『涅槃経』仏性説の背景
加藤不二夫	仏教学	法相唯識の立場とは—真如と後得智の解釈を通して—
熊野 恒陽	仏教文化	存覚における在家ということ
中嶋 容子	仏教文化	音象徴語の一音節語基—二音節語基との比較から—
福島 栄寿	仏教文化	思想史学の方法についての覚書—清沢満之批判論をめぐって—
劉 建	仏教文化	俊苾の北京律について
菊池 哲	仏教学	唯識無境についての—考察

11号 (1994年12月1日発行)

執筆者	専攻	題 目
橋本 秀章	仏教学	智顛の六根清浄について
上杉 義麿	仏教文化	明治初頭の宗教政策と仏教—教部省政策と民衆教化—
三村 徹也	哲学	キェルケゴールにおける信仰と勇氣—『おそれとおののき』をテキストとして—
國島貴美子	哲学	知識論の検討—プラトン『テアイテトス』の感覚説批判—
加藤 秀樹	仏教学	中観派における仏護の立場—仏護の二諦観を中心として—

12号 (1995年12月1日発行)

執筆者	専攻	題 目
泉 英太郎	真宗学	浄土の探求
内藤 円亮	真宗学	源信の菩提心論
徐 榮愛	仏教学	元曉の『法華宗要』の研究
神田 淳世	哲学	ヤスパースに於ける「交わり」についての問い
島津 京淳	仏教文化	沈約「述僧設會論」について
服部 了潤	仏教文化	「弘安三年・西大寺伊勢御正躰納入文書」をめぐるの律僧と神祇
畝部 俊也	仏教学	バルトリハリの推論観—『ヴァーキャパディーヤ』第1章解説研究(1)—

### 論文単位修得状況

#### 修士論文単位修得者

大学院 (専攻)	1991(平成3)年度			1992(平成4)年度			1993(平成5)年度			1994(平成6)年度			1995(平成7)年度		
	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%
真宗学	—	7	43.8	—	15	71.4	—	11	61.1	1	16	94.1	—	12	75.0
仏教学	—	2	22.2	—	9	69.2	—	7	50.0	2	9	64.3	1	11	64.7
哲学	—	3	60.0	—	3	100.0	—	1	33.3	—	4	80.0	—	9	100.0
仏教文化	—	6	60.0	1	5	38.5	—	12	80.0	—	9	69.2	—	5	71.4
合 計	—	18	45.0	1	32	64.0	—	31	62.0	3	38	77.6	1	37	75.5

人数：後期修得者数

%：対象年次の在学生数に対する割合

#### 卒業論文単位修得者

文学部	1991(平成3)年度			1992(平成4)年度			1993(平成5)年度			1994(平成6)年度			1995(平成7)年度		
	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%
真宗学科	1	114	87.7	1	134	87.0	3	154	84.2	2	189	84.8	1	181	86.6
仏教学科	1	90	90.9	2	121	90.3	4	105	91.3	2	163	89.6	1	164	89.6
哲学科	5	67	82.7	1	62	81.6	2	82	88.2	2	111	88.8	2	131	80.4
社会学科	—	99	93.4	—	90	88.2	1	96	96.0	1	144	93.5	2	174	93.5
史学科	—	89	92.7	—	107	93.9	1	75	88.2	—	116	92.8	—	197	89.1
文学科	2	66	88.0	2	104	87.4	1	101	92.7	—	133	91.7	—	184	93.4
合 計	9	525	89.4	6	618	88.4	12	613	89.5	7	856	89.7	6	1031	89.0

人数：後期修得者数

%：対象年次の在学生数に対する割合

#### 卒業研究単位修得者

短期 大学部	1991(平成3)年度			1992(平成4)年度			1993(平成5)年度			1994(平成6)年度			1995(平成7)年度		
	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%	前期修得	人数	%
仏教科	—	164	87.2	—	236	90.1	—	96	85.7	—	120	90.9	1	62	92.5
国文科	—	116	97.5	—	203	97.1	—	1	25.0						
文化学科							—	317	98.4	1	328	97.3	2	376	98.7

幼児教育科	—	77	95.1	—	71	97.3	—	81	100.0	—	83	96.5	—	82	96.5
合 計	—	357	92.0	—	510	93.8	—	495	95.4	1	531	95.7	3	520	97.6

人数：後期修得者数

%：対象年次の在学学生数に対する割合

## 7. 研修員制度

いうまでもなく大学は教育機関であるとともに、研究機関である。そして研究機関であることは、本学に所属する学生・教職員についてのみ言えることではなく、学外に向って広く公開されたものでなければならない。学外に公開する制度として、文学部・短期大学部・大学院に共通して科目等履修生・聴講生の制度をおいている。

他に文学部・大学院には研修員の制度を設けて広く学外からの研究者の受け入れに応じている。研修員は本学において特定の課題のもと研究指導をうけるため、一定期間在籍する者と規定され、大学を卒業またはそれと同等以上の学力があると認められた者であれば、「研修員認定委員会」の議を経て本学の研修員として受け入れることが可能な制度となっている。

研修員には次の2種がある。

委託研修員 公共団体又は他の研究機関に所属する者で、当該団体・機関の委託に基づく者  
 一般研修員 個人の希望により本学で研究指導を受ける者

研修員の受け入れ期間は、3カ月、6カ月、1年間、2年間のいずれかと定めることができ、他大学など研究期間よりの委託・派遣に加え、社会人、有職者などさまざまなケースの研究希望に対応できる制度である。

研修員は希望に応じて本学の講義を聴講すること、図書館などの本学の施設を利用することも可能であり、同時に指導教員を定めて研究指導を受けることが義務づけられている。

大学院には、この他「外国人特別生」制度が設けられているが、近年受け入れた研修員は次の通りである。

### 研修員／期間・研究テーマ

1991（平成3）年度

氏名	性	国籍	研究テーマ	指導教員	期間
龍溪 章雄	男	日本	近代真宗学の成立史	幡谷 明	1991. 4. 1～1992. 3. 31
艦 由紀	女	日本	近世村落の形成—太閤検地帳を中心に—	大桑 齊	1991. 4. 1～1992. 3. 31
新谷孫一郎	男	日本	親鸞における自然法爾思想について—教育的視点に立って—	寺川 俊昭	1991. 4. 1～1992. 3. 31
海老原 章	男	日本	『教行信証』・「信巻」の研究	寺川 俊昭	1991. 4. 1～1992. 3. 31
徐 榮愛	女	韓国	仏教文学研究の方法論 韓・日浄土往生説話の比較研究	渡辺 貞磨 木村 宣彰	1991. 4. 1～1992. 3. 31
陳 靖国	男	中国	日本中世文学（鴨 長明を中心とする）	渡辺 貞磨	1991. 4. 1～1992. 3. 31
ROBERT F. RHODES	男	アメリカ	源信の『一乗要決』—仏性論争に関する研究—	古田 和弘	1991. 4. 1～1991. 6. 30
何 京焱	女	中国	中日交流史の研究—文物交流を中心として—	藤島 建樹 佐々木令信	1991. 4. 1～1992. 3. 31
陳 淑蘭	女	中国	中日交流史の研究—人物交流を中心として—	藤島 建樹 佐々木令信	1991. 4. 1～1992. 3. 31

桂 永基	男	中 国	19世紀中葉以降の中日近代史とフェンズム日本の形成	木場 明志	1991.10. 1～1992. 3.31
段 方聆	女	中 国	日本体育史	山田 知子	1991.10. 1～1992. 3.31

1992 (平成4) 年度

氏 名	性	国 籍	研 究 テ ー マ	指 導 教 員	期 間
徐 榮愛	女	韓 国	仏教文学研究の方法論 韓・日浄土往生説話の比較研究	渡辺 貞磨 木村 宣彰	1992. 4. 1～1993. 3.31
段 方聆	女	中 国	日本体育史	山田 知子	1992. 4. 1～1993. 3.31
VERHAGUE ANNE	女	フ ラ ンス	Japanese women's participation in the life of nation World War II in the OSAKA, KOBE, KYOTO area.	松村 尚子	1992. 1. 1～1993. 3.31
GONON ANNE	女	フ ラ ンス	現代日本における実践感覚の歴史的・社会的考察 —西欧思想の受容と宗教運動—	箕浦 恵了 寺川 俊昭	1992. 4. 1～1993. 3.31
金 偉	男	中 国	サンスクリット及びチベット語の仏典研究	小川 一乗	1992. 4. 1～1993. 3.31
赤松 徹真	男	日 本	日本近代仏教の史的研究	大桑 齊	1992. 4. 1～1993. 3.31
洪 斗杓	男	韓 国	日本近代文学の研究 —1920年以降の小説を中心として—	喜多川恒男	1992. 4. 1～1993. 3.31
圓 輝	男	中 国	中国浄土教における念仏思想の展開	幡谷 明	1992.10. 1～1993. 3.31
張 暁光	男	中 国	王維の芸術観と宗教観について	平野 顕照	1992.10. 1～1993. 3.31
霍 達非	男	中 国	西洋哲学思想と社会発展の関係	堀尾 孟	1992.10. 1～1993. 3.31
ESBEN ANDREASEN	男	デンマーク	日本における浄土教特に浄土真宗を学びデンマークに紹介する	安富 信哉 多田 稔	1992.10. 1～1993. 3.31
謝 繼寧	男	中 国	中日文化の比較研究	若槻 俊秀	1992.10. 1～1993. 3.31
于 濤	女	中 国	孫文と日本の関係	若槻 俊秀	1992.10. 1～1993. 3.31
JOSEPH MVUALA-MVONDO	男	ザ イ ール	仏教特に浄土真宗を学び、実在論的比較思想的方法により研究する	安富 信哉	1992.10. 1～1993. 3.31

1993 (平成5) 年度

氏 名	性	国 籍	研 究 テ ー マ	指 導 教 員	期 間
VERHAGUE ANNE	女	フ ラ ンス	Japanese women's participation in the life of nation World War II in the OSAKA, KOBE, KYOTO area.	松村 尚子	1993. 4. 1～1993. 6.30
GONON ANNE	女	フ ラ ンス	現代日本における実践感覚の歴史的・社会的考察 —西欧思想の受容と宗教運動—	箕浦 恵了 寺川 俊昭	1993. 4. 1～1994. 3.31
金 偉	男	中 国	サンスクリット及びチベット語の仏典研究	小川 一乗	1993. 4. 1～1994. 3.31
赤松 徹真	男	日 本	日本近代仏教の史的研究	大桑 齊	1993. 4. 1～1994. 3.31
洪 斗杓	男	韓 国	日本近代文学の研究 —1920年以降の小説を中心として—	喜多川恒男	1993. 4. 1～1994. 3.31
圓 輝	男	中 国	中国浄土教における念仏思想の展開	幡谷 明	1993. 4. 1～1994. 3.31



張 暁光	男	中 国	王維の芸術観と宗教観について	平野 顕照	1993. 4. 1~1993. 9. 30
霍 達非	男	中 国	西洋哲学思想と社会発展の関係	堀尾 孟	1993. 4. 1~1994. 3. 31
謝 繼寧	男	中 国	中日文化の比較研究	若槻 俊秀	1993. 4. 1~1994. 3. 31
于 濤	女	中 国	孫文と日本の関係	若槻 俊秀	1993. 4. 1~1994. 3. 31
JOSEPH MVUALA-MVONDO	男	ザイール	仏教特に浄土真宗を学び、実在論的比較思想的方法により研究する	安富 信哉	1993. 4. 1~1993. 4. 30
唐 耀文	女	中 国	日本と西洋の思想研究	大竹 鑑	1993. 4. 1~1994. 3. 31
LEIF KARLENS-TEDT	男	スウェーデン	西洋人から見た日本文学と中国文学の相違点と共通点について	喜多川恒男	1993. 4. 1~1994. 3. 31
柳 成雨	男	韓 国	日本仏教文化の形成について	名畑 崇	1993. 4. 1~1994. 3. 31
郭 瑞琴	女	中 国	日中民俗文化の比較研究	佐々木令信	1993. 4. 1~1994. 3. 31
PETER LAIT	男	イギリス	Can Tariki, Seen as The Saving grace of Amida be applied universally?	安富 信哉	1993. 4. 1~1994. 3. 31
YE MYINT	男	ミャンマー	日本の仏教及び8世紀から13世紀にわたる日本歴史	名畑 崇	1993. 4. 1~1994. 3. 31
吉田 敦史	男	日 本	親鸞の著作に見られる法然の教言と親鸞の法然像	寺川 俊昭	1993. 4. 1~1994. 3. 31
玄 重和	女	韓 国	日本音楽における仏教文化	岩田 宗一	1993. 4. 1~1994. 3. 31
KALPAKAN SANKAR-NARAYAN	女	インド	1) Cultural Tie between India and Japan. 2) Study of Ancient Sanskrit Manuscripts, Preserved in Japanese Temples.	小川 一乗	1993. 6. 1~1994. 3. 31
陳 経蘇	男	中 国	仏教文化学	若槻 俊秀	1993.10. 1~1994. 3. 31
慧 光	男	中 国	中観思想について	小川 一乗	1993.10. 1~1994. 3. 31
平井 喜之	男	日 本	サンスクリット語の研究	宮下 晴輝	1993.10. 1~1994. 3. 31
申 美玉	女	韓 国	短編小説の読み方 (イニシエーション小説の典型としてのAraby)	米本 義孝 村瀬 順子	1993.10. 1~1994. 3. 31

1994 (平成6) 年度

氏 名	性	国 籍	研 究 テ ー マ	指 導 教 員	期 間
霍 達非	男	中 国	西洋哲学思想と社会発展の関係	堀尾 孟	1994. 4. 1~1994. 9. 30
謝 繼寧	男	中 国	中日文化の比較研究	若槻 俊秀	1994. 4. 1~1994. 9. 30
于 濤	女	中 国	孫文と日本の関係	若槻 俊秀	1994. 4. 1~1994. 9. 30
LEIF KARLENS-TEDT	男	スウェーデン	西洋人から見た日本文学と中国文学の相違点と共通点について	喜多川恒男	1994. 4. 1~1994. 9. 30
郭 瑞琴	女	中 国	日中民俗文化の比較研究	佐々木令信	1994. 4. 1~1995. 3. 31
PETER LAIT	男	イギリス	Can Tariki, Seen as The Saving grace of Amida be applied universally?	安富 信哉	1994. 4. 1~1995. 3. 31
YE MYINT	男	ミャンマー	日本の仏教及び8世紀から13世紀にわたる日本歴史	名畑 崇	1994. 4. 1~1995. 3. 31

陳 経蘇	男	中 国	仏教文化学	若槻 俊秀	1994. 4. 1~1995. 3. 31
慧 光	男	中 国	中観思想について	小川 一乗	1994. 4. 1~1995. 3. 31
平井 喜之	男	日 本	サンスクリット語の研究	宮下 晴輝	1994. 4. 1~1994. 9. 30
申 美玉	女	韓 国	短編小説の読み方 (イニシエーション小説の典型としての Araby)	米本 義孝 村瀬 順子	1994. 4. 1~1994. 9. 30
施 斌	女	中 国	アイルランド文学ことにイエイツと東洋 思想の関連	内藤 史朗	1994. 4. 1~1995. 3. 31
牧野 和夫	男	日 本	中世における仏教文学、並びにその周辺 に関する基礎的研究	片岡 了	1994. 4. 1~1995. 3. 31
陳 小紅	女	中 国	中国文化史、特に仏教史の研究	安藤 智信	1994. 4. 1~1994. 9. 30
金 大植	男	韓 国	日・韓物語文学への比較研究	大桑 斉	1994. 4. 1~1995. 3. 31
葉 応録	男	中 国	明治国家の進歩と東アジアの歴史社会	木場 明志	1994. 4. 1~1995. 3. 31
呉 光輝	男	中 国	西田幾多郎の『善の研究』と陽明学の関 係について	堀尾 孟	1994. 4. 1~1994. 9. 30
頼 慶明	男	中 国	唐代仏教思想と日中文化	河内 昭円	1994. 4. 1~1995. 3. 31
陳 雲堯	男	中 国	東洋史学 (主に中国近世の社会と文化)	大内 文雄	1994. 4. 1~1995. 3. 31
高 歌	女	中 国	幼児教育とカウンセリング	佐賀枝夏文	1994. 4. 1~1995. 3. 31
張 衛東	男	中 国	漢字文化圏の成立と発展	竺沙 雅章	1994. 4. 1~1995. 3. 31
姜 媛華	女	中 国	日中仏教交流史	佐々木令信	1994. 4. 1~1994. 9. 30
王 小安	女	中 国	国際文化交流における英語の果たす機能	多田 稔	1994. 4. 1~1995. 3. 31
孟 海波	男	中 国	中日文化宗教信仰の比較研究	若槻 俊秀	1994. 4. 1~1995. 3. 31
渠 昭	女	中 国	中国文化のなかの年画・切り絵について	野村 哲也	1994. 4. 1~1995. 3. 31
劉 艶	女	中 国	中日文学の比較	河内 昭円	1994.10. 1~1995. 3. 31
余 衛華	男	中 国	中国佛教の医学思想	福島 光哉	1994.11. 1~1995. 3. 31

1995 (平成7) 年度

氏 名	性	国 籍	研 究 テ ー マ	指 導 教 員	期 間
郭 瑞琴	女	中 国	日中民俗文化の比較研究	佐々木令信	1995. 4. 1~1996. 3. 31
PETER LAIT	男	イギリス	Can Tariki, Seen as The Saving grace of Amida be applied universally?	安富 信哉	1995. 4. 1~1996. 3. 31
陳 経蘇	男	中 国	仏教文化学	若槻 俊秀	1995. 4. 1~1996. 3. 31
慧 光	男	中 国	中観思想について	小川 一乗	1995. 4. 1~1996. 3. 31
施 斌	女	中 国	アイルランド文学ことにイエイツと東洋 思想の関連	内藤 史朗	1995. 4. 1~1996. 3. 31
頼 慶明	男	中 国	唐代仏教思想と日中文化	河内 昭円	1995. 4. 1~1996. 3. 31
陳 雲堯	男	中 国	東洋史学 (主に中国近世の社会と文化)	大内 文雄	1995. 4. 1~1996. 3. 31
高 歌	女	中 国	幼児教育とカウンセリング	佐賀枝夏文	1995. 4. 1~1996. 3. 31
張 衛東	男	中 国	漢字文化圏の成立と発展	竺沙 雅章	1995. 4. 1~1995. 9. 30
王 小安	女	中 国	国際文化交流における英語の果たす機能	多田 稔	1995. 4. 1~1996. 3. 31
孟 海波	男	中 国	中日文化宗教信仰の比較研究	若槻 俊秀	1995. 4. 1~1996. 3. 31

劉 艶	女	中 国	中国文学の比較	河内 昭円	1995. 4. 1~1996. 3. 31
余 衛華	男	中 国	中国佛教の医学思想	福島 光哉	1995. 4. 1~1996. 3. 31
王 宇光	男	中 国	中国語と日本語の略語比較研究	片岡 了	1995. 4. 1~1996. 3. 31
包 麗萍	女	中 国	現代日本の家族問題 —高齢化・少子化の問題を中心に	松村 尚子	1995. 4. 1~1996. 3. 31
戴 新	女	中 国	日本人の家族道徳観	池上 哲司	1995. 4. 1~1996. 3. 31
張 竟業	男	中 国	日本における大乘仏教思想の展開	古田 和弘 木村 宣彰	1995. 4. 1~1996. 3. 31
王 麗萍	女	中 国	宋代中日文化交流史の研究	竺沙 雅章	1995. 4. 1~1996. 3. 31
吳 琼	女	中 国	中国仏教と日本仏教との交流	木村 宣彰	1995. 4. 1~1996. 3. 31
陳 躬芒	男	中 国	現代青少年道徳教育及び社会との関係	守谷 正巳	1995. 6. 1~1996. 3. 31
黄 国平	男	中 国	子供の望ましい人格を形成することについて	滝口 直子	1995. 7. 1~1996. 3. 31
高 立強	男	中 国	日本児童文学の現状及び将来の発展について	西田 良子	1995.10. 1~1996. 3. 31
方 康	男	中 国	いじめ問題とその対策について	守谷 正巳	1995.10. 1~1996. 3. 31
王 命棋	男	中 国	中国における病める教育の問題を臨床的に研究	守谷 正巳	1995.10. 1~1996. 3. 31
BROTONS ARNAUD PAUL	男	フ ラ ンス	熊野詣について	豊島 修	1995.10. 1~1996. 3. 31
藤沢 真純	男	日 本	浄土思想の源流 (釈尊の悟りと聖人の救い)	安富 信哉	1995.10. 1~1996. 3. 31